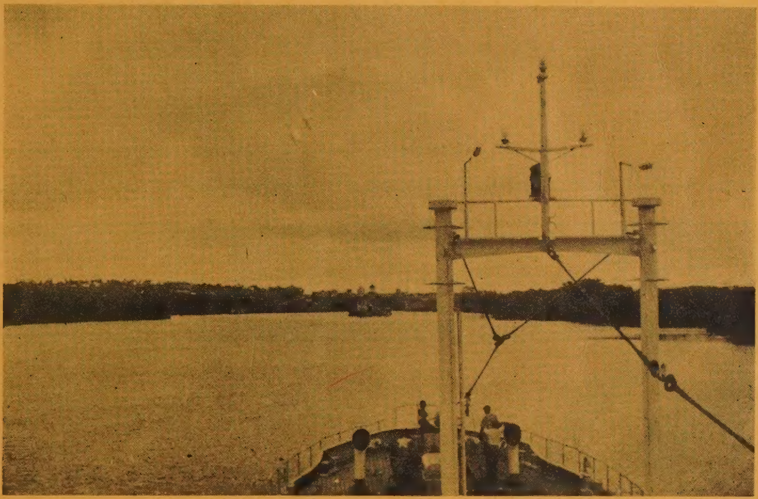
PERIODICAL
#51 #51
APR 12 1961
FISH & WILDLIFE SERVICE

鮪漁業 第五十一号 昭和三十三年七月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

Tuna Fishing



—パナマ運河 (相模丸)—

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY ･･･JAPAN･･･

鮪 漁 業 研 究 会

No. 51, 1958

暑中御伺

鋼木船造修一般

500噸 船台 三基

起重機 10噸・50噸 各一基

三崎船舶工業株式会社

本社 東京都中央区西八丁堀2の10
電話 築地(55)9661～5
工場 神奈川県三浦市三崎町向ケ崎2446
電話(三浦)2880・2934・2343

JRC 漁船用無線装置

常に新しい研究と最高技術に輝く

定評ある送信機

優秀な受信機

新設計の船内拡声装置

超小型魚群探知機

日本の誇り
国産レーダー

漁場の測定に
ロラン受信機

安全航海に
気象模写受信装置

JRC

本社・工場 東京都三鷹市上連雀930
東京営業所 東京都渋谷区千駄ケ谷4の693
大阪支社 大阪市北区堂島中1の22

日本無線

—目　次—

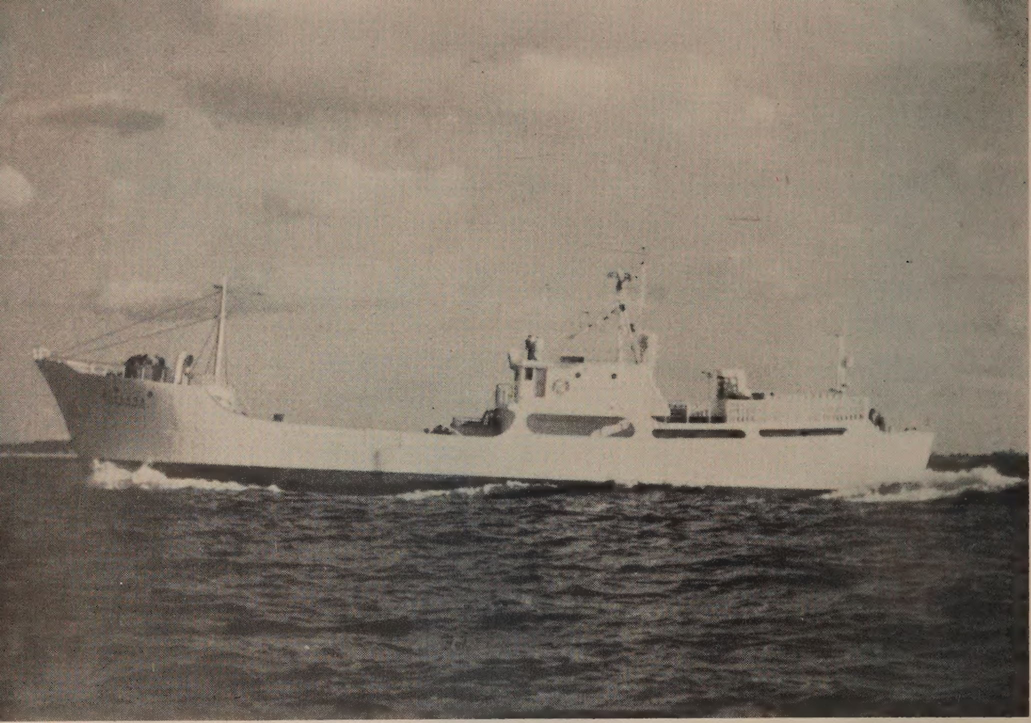
鮪漁船紹介　第32 大黒丸　第7 岩地丸
鮪漁場図（昭和32年11月操業）
三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年11月現況）……… 1
1. 調査の概要……… 1
2. 漁況の概要……… 1
3. 各海区の漁況……… 2
A. 赤道以北140°W以東漁場……… 2
B. 赤道以南140°W以東漁場……… 3
C. 赤道以北180-140°Wの漁場……… 3
D. 赤道以南180-140°Wの漁場……… 5
E. 北部太平洋漁場……… 6
F. 旧南洋庁沿海漁場……… 7
G. ソロモン以南漁場……… 8
H. 東部印度洋漁場……… 10
I. 西部印度洋漁場……… 11
J. 大西洋漁場……… 12
月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年11月操業分）別表 1……… 13
月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年11月操業分）別表 2……… 17
会員レポート　サンゴ海クックタウン沖の10月から11月にかけての海況と漁況……… 第7昭福丸漁撈長 会員 伊藤定規……… 25
ブーゲンビル南方海域の11月の海況と操業船の分布……… 第1成洋丸船長 会員小笠原福男……… 25
鮪類標識放流について……… 25
印度洋低緯度海域で採集したメカジキの幼魚について……… 和歌山県水産試験場 榎田昭一、高原正、岡田徳之助……… 26
「大西洋産カジキ2種について」の報文中の一部訂正について……… 神奈川県水産試験場 会員 中込 淳……… 28
鮪類水揚価格表（三崎）昭和33年5月．6月……… 29
海のおとぎばなし……… まえだひろし……… 30
業界メモ……… 31

暑中御伺 —1958—

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社 金指造船所

本社工場	清水市三保 4010—19	電話 清水 (2) 4111～5
塚間工場	清水市三保弁天 492	電話 清水 (2) 5151～2
東京事務所	東京都港区芝田村町 3ノ4	電話 芝(59)1306～8
三崎出張所	三浦市三崎町西野 34	電話 (三浦) 2851



第 32　大　黒　丸

船　主	小島政夫（三浦市）
造船所	徳島造船産業株式会社
主要寸法	長36.30m×幅6.80m×深3.40m
総　屯　数	251.03屯
魚艙容積	210m³
燃料油艙	128m³
速　力	最大　11節
主　機	デーゼル　550HP（伊藤鉄工）　1基
補　機	デーゼル　80HP，60HP（ヤンマー）　各1基
無　線	250W，100W（三崎無線）　各1基
冷凍装置	日新興業設計施工　アンモニア直膨式 40HP，30HP　各1基
レーダー（神戸工業），方探（光電），魚探（海上電機），其の他	各1式
竣　工	昭和33年3月9日

暑　　中

漁船用中短波無線送受信装置
漁船用中短波無線電話装置
製作工事販売保守一式

合資会社　**三崎無線電**

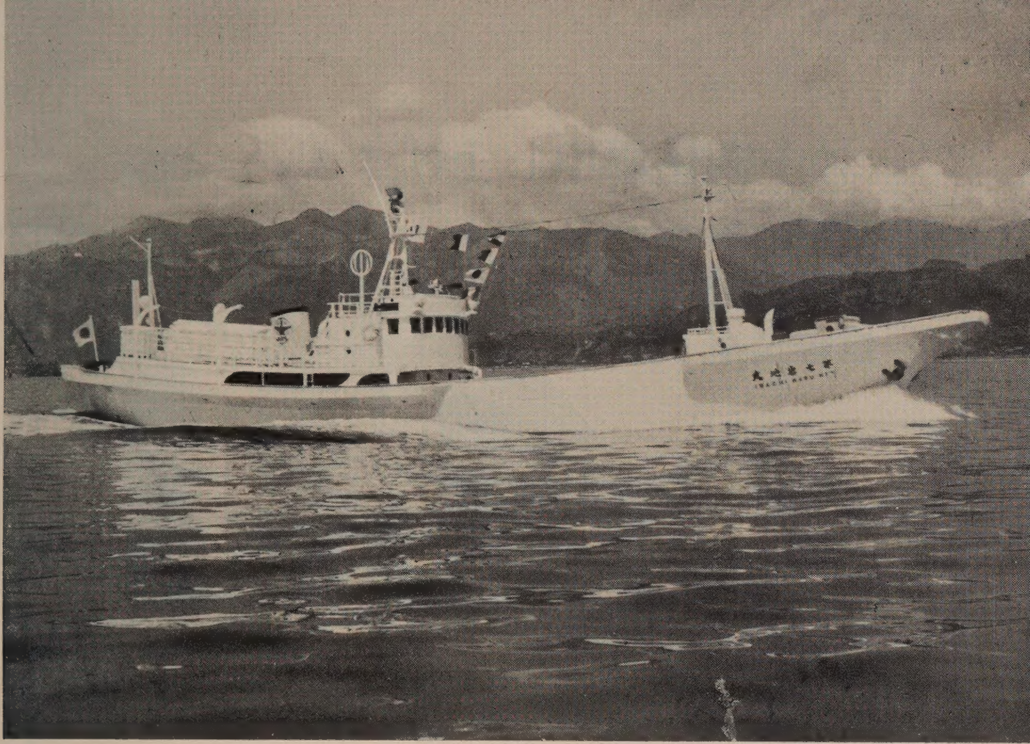
本社．営業所　三浦市三崎町仲崎187　電話
工　　　場　三浦市三崎町六合原660　電話
八戸出張所　青森県八戸市鮫町住吉8

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL．北浜（23）9736—7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL．銀座（57）6804．6810．6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL．清水（2）3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL．三浦2851

施工船名
第32大黒丸
第7岩地丸
第1広島丸
第11清勝丸
多胡丸
第12福生丸
（其の他約五百隻）



第 7 岩 地 丸

船主	岩地水産株式会社（静岡県）
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長34.15m×幅6.80m×深3.50m
総屯数	239.19屯
魚艙容積	163.95m³
燃料油艙	108.22m³
速力	最大 10.538節
主機	デーゼル 600HP（伊藤鉄工） 1基
補機	デーゼル 65HP（川口鉄工） 2基
無線	200W，75W（日新無線） 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニア直膨機 5″×4″ 30HP 1基

レーダー（沖電機），ロラン（東京計器），方探（大洋），音測兼魚探（産研），M.C.P（東計），其の他 各1式

竣工	昭和33年4月25日

御 伺

装備船名
第 32 大 黒 丸
第 18 光 洋 丸
第 12 全 功 丸
第 30 振 興 丸
第 12 福 生 丸
其 の 他

工業所
補）2543・3431番
補）2960番

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

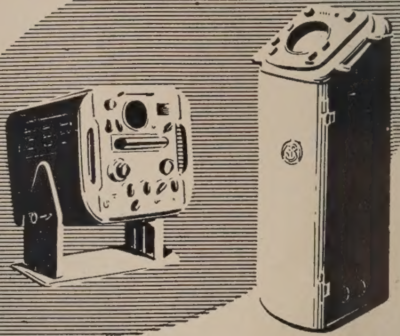
株式会社 三 保 造 船 所

本社 静岡県清水市三保3797 電話清水(2)代表2201番
東京事務所 東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705 電話 千代田（27）5522．6775．9761番

暑中御見舞申し上げます —1958—

能率的な航海は
信頼出来る計器で

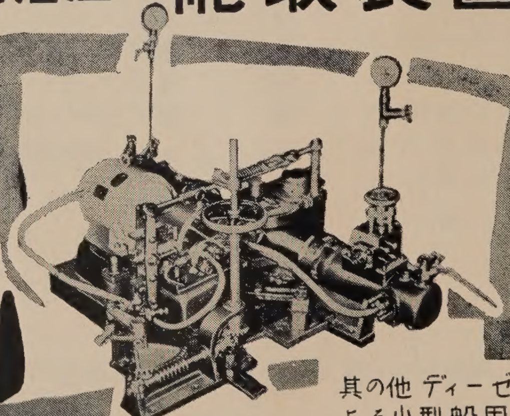
スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン



株式会社東京計器製造所
本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話 (73) 2211~9
出張所及びサービスステーション　神戸．函館・長崎・横浜　名古屋・下関

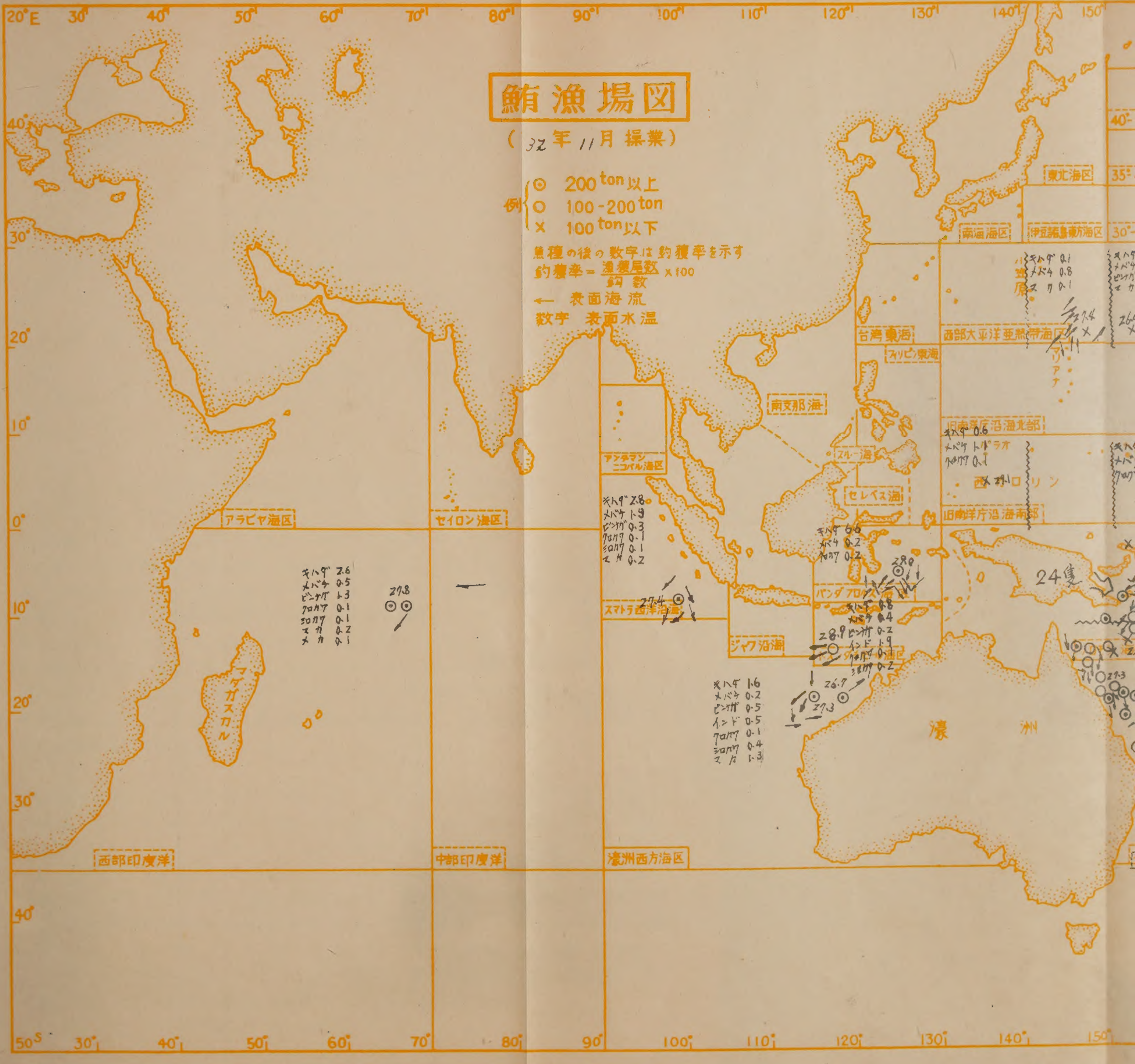
川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

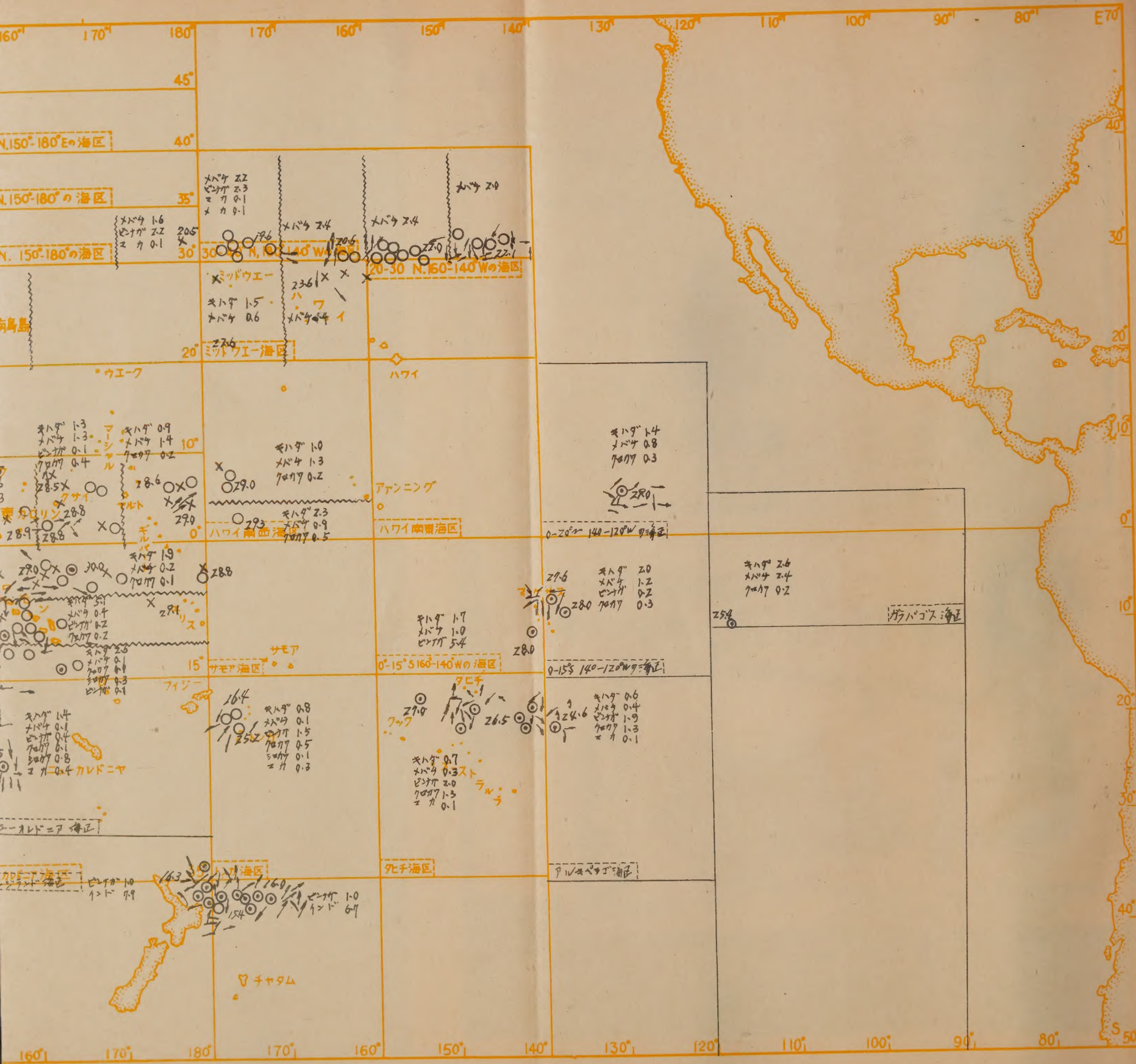
1HP ~ 3HP



其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社
神戸市生田区東川崎町二丁目一四(電) 湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電) (59) 6101
(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)


鮪漁場図
(32年11月操業)
例 ⊙ 200ton以上
○ 100-200ton
× 100ton以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数/釣数×100
← 表面海流
数字 表面水温
東北海区
南海海区
伊豆諸島東方海区
台湾東海
フィリピン東海
西部大平洋亜熱帯海区
南支那海
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
スルー海
セレベス海
バンダ フロレス海
ジャワ沿海
アンダマン ニコバル海区
スマトラ西洋沿海
アラビヤ海区
セイロン海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
マダガスカル
濠洲
マリアナ
カロリン
24隻
キハダ 2.6
メバチ 0.5
ビンナガ 1.3
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マカ 0.2
メカ 0.1
27.8
キハダ 2.8
メバチ 1.9
ビンナガ 0.3
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マカ 0.2
27.4
キハダ 6.6
メバチ 0.2
クロカワ 0.2
28.9
キハダ 0.8
メバチ 0.4
ビンナガ 0.2
インド 1.9
クロカワ 0.1
シロカワ 0.2
26.7
27.3
キハダ 1.6
メバチ 0.2
ビンナガ 0.5
インド 0.5
クロカワ 0.1
シロカワ 0.4
マカ 1.3
キハダ 0.6
メバチ 1.1
クロカワ 0.1
29.1
キハダ 0.1
メバチ 0.8
マカ 0.1
27.3
20°E 30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150°
40° 30° 20° 10° 0° 10° 20° 30° 40° 50°S



160° 170° 180 170 160 150 140 130 120 110 100 90 80 E70
45° 40° 35° 30 20° 10° 0° 15
N.150°-180°Eの海区
N.150°-180°の海区
N. 150°-180°の海区
20-30 N.160-140 Wの海区
ミッドウエー
ミッドウエー海区
ハワイ
ウエーク
マーシャル
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
0-20°N 140-120°Wの海区
サモア
サモア海区
フィジー
カレドニヤ
0-15°S 160-140°Wの海区
0-15°S 140-120°Wの海区
タヒチ
クック
タヒチ海区
アルキペラゴ海区
ガラパゴス海区
チャタム
キハダ 1.7
メバチ 1.0
ビンナガ 5.4
キハダ 2.6
メバチ 2.4
クロカワ 0.2
キハダ 1.4
メバチ 0.8
クロカワ 0.3
ビンナガ 1.0
インド 6.7
40 30 20 10 0° 10 20 30 40 S 50°
160° 170° 180 170 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80°

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和32年11月現況）

三　崎	鮪漁業研究会	（調査研究部）
	神奈川県水産試験場	（資源部鮪担當）
東京，焼津	南海区水産研究所	（遠洋資源部）

1　調　査　の　概　要

昭和32年11月分として調査した鮪延縄船数は、三崎61，東京49，焼津5，計115であり、体長測定船数は77，調査海区数は25であつた。

2　漁　況　の　概　要

（キ　ハ　ダ）

0—20°N, 140—120Wの海区5°N以北はやや不漁、ガラパゴス海区南西部は好漁、0—15°S, 140—120°Wの海区は不漁で、ハワイ南西5°N以北と5°N以南の海域も冬の不漁期に入りつつある。0—15°S, 160—140°Wの海区、タヒチ海区、トンガ海区もともに不漁、南洋南部は各海域を通じて好漁なく、とくに130—140°Eの海域は不漁である。ソロモン海区の0—5°Sの海域はやや好漁、5—10°Sの珊瑚海西部海域では9月と同様にいちじるしく好漁、10—15°Sの珊瑚海西部海域においては、10月の高率から半減した。ニューカレドニア海区西部においても10月より減少して不漁となり、濠洲西方海区では9月と同率でやや不漁、バンダ海はいちじるしい高率、小スンダ•チモール海区は9月より増加したが好漁とならず、スマトラ西岸沿海南部は中程度の漁、西部印度洋海区北東部は7月以來同様の率が続き不漁である。大西洋漁場アマゾン海区のキハダは非常な好漁であつた。

（メ　バ　チ）

0—20°N, 140—120°Wの海区は不漁、ガラパゴス海区は10月からやや減少したがまだ好漁、0—15°S, 140—120°Wの海区では不漁となり、30—40°N, 180—140°Wの海区は好漁となりつつある。ミッドウエーは好漁期前の低率、ハワイ南西海区5°N以北は不漁、5°N以南の海域はこの海区としてはやや好漁、0—15°S, 160—140°Wの海区も好漁、30—35N, 150—180Eの海区東部では好漁、西部太平洋亜熱帯海区170—180°Eの海域と南洋南部の130—140°Eの海域は不漁、南洋南部140°E以東各海域はおおむね好漁である。ニューカレドニア、ニュージーランドおよび濠洲西方の3海区は低率、バンダ•フロレス海区、小スンダ•チモール海区は不漁期にある。スマトラ西岸沿海は好漁、西部印度洋海区は不漁で、大西洋アマゾン海区も不漁である。

（ビンナガ、インドマグロ）

ビンナガはアルキペラゴ海区で好漁、30—40°N, 180—140°Wの海区では西部の180—170°Wの海域で好漁があり、0—15°S, 160—140°Wの海区東部でいちじるしい高率タヒチ海区はやや高く、トンガ海区は低率で、チヤタム海区はやや好漁である。30—35°N, 150—180°Eの海区の 170—180°E の海域でも冬ビンが高率となり始めた。ソロモン海区0—5°S, および5—10°S は不漁、10—15°S の西部海域も好漁ではないが、0—10°S よりは高い。ニユーカレドニア海区は冬季の不漁、ニユージーランド海区はチヤタム海区とほぼ同率でやや好漁、豪洲西方海区と小スンダ•チモール海区、スマトラ西岸沿海海区はともに不漁、西部印度洋海区は不漁期であるが好漁である。アマゾン海区のビンナガは不漁と思われる。

インドマグロはチヤタム海区において10月にひき続き高率、ニユージーランド海区では減少の傾向をみせているが、まだ相当な好漁である。豪洲西方海区は好漁期前でまだ不漁、小スンダ•チモール海区では、秋季の好漁期を過ぎ低率となつた。

(ク　ロ　カ　ワ)

0—20°N, 140—120°Wの海区、ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区は不漁、アルキペラゴ海区は好漁、ハワイ南西海区 5°N以北の海域は不漁、5°N 以南はやや高く0—15°S, 160—140°Wの海区は不漁、タヒチ海区は 10月から高率を示し、トンガ海区はまだ高率期とならない。南洋南部は不漁期で、150—160°Eと170°—180°Eの海域がわづかに高い。ソロモン海区は 5—10°S の西部海域がやや高いのみで、全般的に不漁、小スンダ•チモール海区は30年末以後低率が続き、スマトラ 西岸沿海 海区、西部印度洋海区も不漁、大西洋漁場アマゾン海区においても高率が得られない。

(その他のカジキ類)

シロカワは、ソロモン海区南西部、ニユーカレドニア海区北西部の珊瑚海西方海域で好漁、豪洲西方海区はやや好漁である。

マカジキはトンガ海区で高率期となつたが、漁獲は低調であり、西部太平洋海区170°—180°E の海域が好漁、ニユーカレドニア海区も好漁で、豪洲西方海区はいちじるしい高率、スマトラ西岸沿海、西部印度洋の両海区はともにやや好漁である。

バショウはソロモン海区5—10°Sの西部海域で高率、バンダ•フロレス海区ではとくに好漁であつた。

3 各海区の漁況

A. 赤道以北140°W以東漁場

(0—20°N, 140—120°Wの海区)

11月のこの海区における調査船は、1隻で、海区中央部南方海域 5°N 以北で操業している。

(キ　ハ　ダ)

0—20°N, 140—120°Wの海区のキハダは、初夏に高率 2.5—2.7を示し、8月1.71と低下してさらに僅かづつ減少を続け、11月は1.41の釣獲率で、29年30年同期に比較すると5°N 以北の同海域で相当な高率を示している。12月、1月に入つてなお減少して

も2, 3月には上昇を始めて初夏の好漁に向うでであらう。

(メ　バ　チ)

29年, 30年, 31年の11月は、2.0—3.5程度の高率であつたが、本年は夏季に高率がみられて9月から減少、11月には激減して0.82の低率となつた。

(ク　ロ　カ　ワ)

この海区のクロカワは本年初夏以来増加せず、0.2—0.3程度の釣獲率で11月は0.35を示し、不漁のまま低率期に入る模様である。

B.　赤道以南140W以東漁場

(ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区、アルキペラゴ海区)

ガラパゴス海区では、8°S, 118°W附近で操業した1隻、0—15°S, 140—120°Wの海区では、マーケサス諸島東側の2隻、アルキペラゴ海域では北西方海域で1隻が始めて調査されている。

ガラパゴス海区の1隻の体長組成は調査できなかつた。

(キ　ハ　ダ)

ガラパゴス海区のキハダは10月やや高率で2.35であつたが、11月は僅か増加して2.63, 0—15°S, 140—120°Wの海区は低率期であるが、10月の低率1.45から恢復を始めたようで、11月1.97と9月に等しくなつた。アルキペラゴ海区北東方海域においては低率期にあるようで0.62を示し、タヒチ海区北方と同様である。

体長組成は、0—15°S, 140—120°Wの海区においては10月と同形、アルキペラゴ海区は大型で141—150cmに山があり、141cm以上の大型魚が93.1%を占めている。

(メ　バ　チ)

メバチは、ガラパゴスと0—15°S, 140—120°Wの両海区において10月より減少し、前者は3.06から2.41, 後者は2.48から1.18となつた。

0—15°S, 140—120°Wの海区2隻は5°S以南で操業しているが、魚体は10月より中型が減少、小型が増加した。

(ビ　ン　ナ　ガ)

ガラパゴス海区には漁獲なく、0—15S, 140—120Wの海区では0.17で9月と同率、アルキペラゴ海区は1.83でタヒチ海区とほぼ同率である。

(ク　ロ　カ　ワ)

ガラパゴス海区のクロカワは0.18で低率、0—15°S, 140—120Wの海区は0.31で、両海区とも10月より僅か増加している。アルキペラゴは1.26と高率期にあり、なお増加がみこまれる。

マーケサス諸島東側海域のクロカワは、191—200cmにモードがあつて171—200cmの体長範囲にある中型魚が54.2%に達した。アルキペラゴ海区では調査尾数が少なかつたが、小中型のみで大型魚、若年魚はみられなかつた。

C.　赤道以北の180°—140Wの漁場

(30—40°N, 180—140°Wの海区、ミッドウエー海区、ハワイ南西海区)

30—40°N, 180°—140°W の海区においては 30°N 線北側での操業船が多く、180°—17°0W の海域では 6 隻、170°—160W では 2 隻、160—150°W, 150—140°W ではそれぞれ 7 隻、4 隻を調査した。ミッドウエー海区においても操業船は 30°N線附近にあつまり180°—170°W で 1 隻、170°—160°W で 3 隻が調査されている。ハワイ南西海区においては2—12°N, 180°附近で 4 隻、うち 3 隻は 5°N以北、1 隻は 5°N以南で操業している。海流については漁場圖参照のこと。

(キ　ハ　ダ)

30—40°N, 180°—140°Wの海区では0.01の低率、ミッドウエー海区の160—170°W海域も同率であるが、180°附近の 1 隻は1.46と高くなつている。ハワイ南西海区 5°N以北では低率期となつたが1.03を示し、この海域としてはまだ高率である。5°N 以南の海域は初夏の高率6.93から 7 月は2.22に激減、10月は2.95と増加したが11月には2.26とふたたび減少、この海域の低率期にある。

ハワイ南西海区 5°N以北の体長組成は、101—110cm に山があつて101—120cm の小型が74.4%を占め、同海区 5°N以南では121—130cm の山は10月に変らないが、101—110cmに第 2 の山があらわれ、大型魚と若年魚がみられなかつた。

(メ　バ　チ)

30—40°N, 180°—140°W の海区におけるメバチの平均釣獲率は2.19で上昇過程にあり、海域別にみると170—160°W, 160—150°W ではともに2.40, 180°—170°W では2.16, 150—140°W は1.97でもつとも低い。ミッドウエー海区のメバチは低率期で海区平均1.13, 180°線附近は 0.56, 170—160°W の海域は 1.36で、30—40°N, 180—140°W の海区と同様に 160°W 線附近が好漁である。ハワイ南西海区 5°N以北は低率期で1.30, 冬から春にかけての高率に比較すると半減している。5°N 以南の海域では 9月 以来おおむね同程度の率が続き、11月は0.91でやや好漁である。

30—40°N, 180°—140°W の海区の 10月のメバチは、9 月より小型であつたが、11月はさらに大型が減じて、150—140°W および 160—150°W の海域では 131—140cm に山があつて、中型魚はそれぞれ49.2%, 44.1%に達し、180°—170°W では121—130cmのものが39.0%を占めて組成中心となり、前二者よりさらに小型である。11月上旬から12月上旬にかけてこの海区で操業した福島丸船長中村定一氏の報告によれば、160°W以西においてはメバチの魚体が小さくなる傾向があり、143°W附近においては約15貫以上の中大型魚がほとんどを占めていたとのことであつた。ハワイ南西海区 5°N以北では121—130cmに山があり、5°N以南では111—120cmに山があつて101—120cm の小型若年魚は53.8%であつた。

(ビ　ン　ナ　ガ)

30—40°N, 180°—140°W の海区では、180°—170°W の海域にビンナガがあらわれ始めて釣獲率は2.29, 32—34°N で操業した 1 隻は4.11の高率を得ている。他海区はいづれも0.01—0.03と低率が続いている。

30—40°N, 180°—170°W のビンナガの体長組成は、91—100cmに山があつて 54.8%

81—110cmの中型魚がほとんどである。

（ク　ロ　カ　ワ）

30—40°N, 180°—140°Wの海区、ミッドウエー海区では周年不漁で、11月はそれぞれ0.01, 0.03と低い。ハワイ南西海区5°N以北は高率期を過ぎて低率となり、9月0.73から0.22に減少した。5°N以南ではまだ高率期で9月0.53, 10月0.52, 11月0.53と同様の好漁である。

ハワイ南西海区5°N以南の体長組成は、161—170cmに41.2%の山があつて9月と同様の組成となり、小型魚が多い。

（マ　カ　ジ　キ）

(30—40°N, 180°—140°Wの海区のマカジキは、次第に低率期に入つて海区平均0.04, 180°—170°Wの海域では0.07の不漁である。

この海区における10月のマカジキは、9月より大中型が増えていたが、11月の180°—170Wの海域では、組成の山が181—190cmにうつつてさらに型が大きくなつた。

D. 赤道以南180°—140°Wの漁場

（0—15°S, 160—140°Wの海区、タヒチ海区、トンガ海区、チヤタム海区）

0—15°S, 160—140°Wの海区ではマーケサス諸島の西側で1隻、タヒチ海区では北部で6隻、トンガ海区においては、北東部のフイジーとトンガ中間の海域で3隻、チヤタム海区でも同じく北東部のニユージーランドのノース•アイランド東方海域で7隻を調査した。

（キ　ハ　ダ）

0—15°S, 160—140°Wの海区は1.75でこの海区としては不漁、冬季の低率期にあるタヒチ海区は9月1.61から10月1.08, 11月0.74と低下して不漁であるが、160—150°Wで操業した1隻は、1.12と最も高い率を得ている。トンガ海区11月は0.79で7月0.31の低率から8月0.54と上昇しつつあり、漸次高率期に向うであろう。チヤタム海区ではキハダの漁獲はない。

タヒチ海区におけるキハダは、9月10月とも大型が多かつたが、11月は121—140cmの中型が増えて50.6%に達した。141—150cmの山は変りなく、31年11月より小型である。トンガ海区も中型魚が多く、131—140cmに組成の山があつて31年11月より大型魚が減つている。

（メ　バ　チ）

0—15°S, 160—140°Wの海区のマーケサス諸島西側では、東側より僅か少く0.97でやや高率、30年11月および31年12月は、それぞれ海区西方とマーケサス附近で0.3, 0.19であつた。タヒチ海区は0.27で8月10月と同率、アルキペラゴ海区と同様に低調である。トンガ海区は11月0.11で7月8月の0.2よりも低下し、チヤタム海区0.01といづれも低率である。

タヒチ，トンガ両海区の体長測定尾数は少いが、大型中型が多い傾向を示している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

0—15°S, 160—140°Wの海区におけるビンナガは好漁期で激増し、調査船1隻は5.37の高率を得ており、タヒチ海区は既にビンナガの好漁期で、10月と同じ操業海域において2.29が得られ、西方の160—150°Wの1隻のみは、0.90とやや低い。海区平均釣獲率は1.98で10月より低下している。トンガ海区北西部のビンナガは、海区中部における夏季の高率から低減して1.49, 2—3ヶ月間には上昇過程にうつるであろう。チヤタム海区北西部では、10月0.92より僅か高く11月は1.02であつた。

トンガ海区では、91—100cmに体長組成の山があり、90cm以下のものはみられず、91—110cmの中型魚が98.6%と大部分を占めていた。チヤタム海区では71—80cmに山があつて54.1%, 90cm以下の中小型魚が91.0%で型が小さい。

（インド マグロ）

チヤタム海区北西部におけるインドマグロの好漁は11月に入つてもおとろえず、この附近で操業した各船は5.6—7.7の高率で平均6.72であるが、次第に減少を始めるものと思われる。

10月に比して型の小さいものが増え、体長組成の山は141—150cmから131—140cmにうつつた。

（クロカワ）

0—15°S, 160—140°Wの海区のクロカワは0.20の不漁、タヒチ海区は8月から上昇中で11月1.28, 161—136°Wの海域の各船は同様な漁獲を得ている。この好漁はしばらく続くであろう。トンガ海区北東方では0.46でなお低く、冬季に入るに従つて漸増するものと推察される。

タヒチ海区のクロカワの体長組成は10月と變らず、トンガ海区では161—170cmの小型に組成の山があつて、タヒチ海区より型が小さい。

（マカジキ）

マカジキはトンガ海区で高率期となり、30年10月、31年11月とほぼ同じく0.29を示している。12月も高率を呈するであろう。

E. 北部太平洋漁場

（30—35°N, 150°E—180°の海区、西部太平洋亜熱帯海区）

30—35°N, 150°E—180°の海区では170°E—180°の東寄り海域で1隻、西部太平洋海区では140—150°Eおよび150—160°Eの20—25°N, 150°E附近でそれぞれ1隻、計2隻を調査している。体長調査は実施できなかつた。

（キハダ）

30—35°N, 150°E—180°の海区のキハダは周年低率、西部太平洋亜熱帯海区140—150°Eの海域では不漁期となつて9月の高率0.75から10月0.16と低下、11月も0.13と低い150—160°Eでは0.31で12月にはさらに低下するであろう。

（メバチ）

両海区とも好漁期にあり、30—35°N, 150—180°Eの海区170°E—180°では、9月1.03から10月1.25, 11月1.61と上昇したが、12月頃から低減過程に入るものと思われる西

部太平洋では140—150°Eで10月0.15の低率から0.81と増加、昨年同期よりは低調である。150—160°Eの海域でも0.66とやや低い。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガは30—35°N, 150°E—180°の海区東部で好漁期に入り始め、10月0.41から11月2.16に急増、12月はさらに増加が見込まれる。西部太平洋亜熱帯海区のビンナガはまだ当分不漁である。

（クロカワ、マカジキ）

西部太平洋のクロカワは完全に不漁期に入り、マカジキは西部太平洋亜熱帯海区150—160°Eの海域で0.73と高率である。

F．旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海南部）

旧南洋庁沿海北部には操業船なく、南部130—140°Eでは5° N線以北で1隻、150—160°Eの海域では2隻、160—170°Eで8隻、170°E以東の海域においては4隻、合計15隻が調査されている。　（漁場圖參照）

（キ　ハ　ダ）

130—140°Eの海域のキハダは10月1.15の不漁からなおも減少して11月は0.59を示し、この海域としては30年9月以来のいちじるしい不漁である。150—160°Eは1.55で10月1.07よりやや増加、160—170°Eでは10月2.37から1.34に減少した。170°E以東の海域でも10月1.89の率より半減して0.91となつた。各海域を通じて5°N以南は以北より高率である。

表 1.　舊南洋廳沿海南部におけるキハダの漁況

	130°—140°E	150°—160°E	160°—170°E	170°E以東
5°N以北	0.59	1.43	1.15	0.87
5°N以南	——	1.66	1.58	1.36

いづれの海域も、体長組成の山は121—130cmにあり、111—130cmの小中型魚が主で131cm以上のものは少く、31年4—6月以來の傾向を示している。

（メ　バ　チ）

130—140°Eの海域では9月から低減過程にあつて10月よりやや減じ1.13, 160—170°Eは1.29と変らず32年4月以來ほぼ同様の率が続いている。150—160°Eおよび170°E以東においては、それぞれ1.62, 1.39で10月より増加している。150—160°Eは高率、他の3海域は中程度の率である。150—160°Eと170°E以東においては5°N以北が以南より高率であつた。

表 2.　舊南洋廳沿海南部におけるメバチの漁況

	130°—140°E	150°—160°E	160°—170°E	170°E以東
5°N以北	1.13	2.03	1.22	1.43
5°N以南	——	1.21	1.28	0.96

130—140°Eの海域では調査尾数少く、体長組成の山は131—140cmにあつて48.8％中型魚が大半であるが、150°E以東では3海域とも10月と同じく111—120cmにあり、150—160°Eでは181cm以上に、また170°E以東では131—140cmに第2の山がある。

170°E以西では若年魚が減つて中型魚が増えている。

（クロカワ）

旧南洋庁沿海南部のクロカワは、170°E以西の海域では西寄りに不漁で釣獲率0.35，9月10月と同様である。170°E以東の海域では10月0.36から11月0.24とさらに減少を続けている。

表 3. 舊南洋廳沿海南部におけるクロカワの漁況

	130°—140°E	150°—160°E	160°—170°E	170°E 以東
5°N以北	0.07	0.36	0.41	0.24
5°N以南	——	0.25	0.39	0.22

体長組成をみると150—160°Eおよび170°E以東の海域では、161—170cmにのみ組成の山があらわれ、160—170°Eでは151—160cmにあらわれていて、30年および31年11月と同じく、大型中型魚が少く小型魚の多い傾向を示している。

G. ソロモン以南漁場

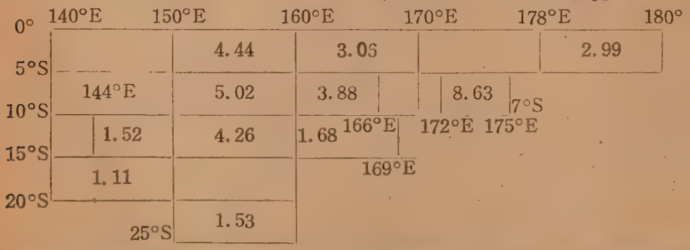
（ソロモン海区、ニユーカレドニア海区、ニユージーランド海区）

ソロモン海区においては、0—6°S，151°—180°Eの海域で13隻、5—10°Sのソロモン諸島とニユーギニア東南部にはさまれた海域附近で24隻、エリス諸島西北方で1隻、さらに10—15°Sの中部から西部、オーストラリアのヨーク半島東岸海域で12隻、合計50隻を調査した。ニユーカレドニア海区ではオーストラリア東岸の珊瑚海で11隻、また、ニユージーランド海区においては、ノース・アイランド北方海域で4隻が操業している。ソロモン海区10—15°Sの海域の海流は、160°E附近ではW—WNW，12—13°S，153—154°EではE—Sである。ヨーク半島東岸では陸岸に沿う南流が周年見られ、流速は0.5—1.3M程度、水温は10月初旬より11月3日頃迄は26—27°Cであつたが、11月上旬以後は27—28°Cとなる。水温は水深50m迄は變化なく、70m附近で表面水温より0.5°C程度低い。（第7昭福丸漁労長伊藤定規氏報告）また、ニユーブリテン島南方海域では11月上旬より半ばまで連日風波高く不良な天候が続いた。（第1成洋丸船長小笠原福男氏報告）

（キハダ）

ソロモン海区のキハダは平均釣獲率4.32で好漁期にあり、0—5°Sの海域では夏季および秋季の低率から恢復して増加し始め、11月は海域平均3.82，西寄りに高率である。5—10°Sでは9月と同様に高率、西部で5.02を示し、10月中、低調であつたニユーブリテン島南方海域には、小型魚を主にした好漁があつた。（第7昭福丸漁労長伊藤定規氏報告）またエリス諸島西北方の1隻は5回の操業で8.63と異例な高率を得ている。10—15°Sでは、10月に好漁を示したヨーク半島東岸は1.52に低下、東方の150—

図 1. ソロモンおよびニユーカレドニア海区におけるキハダの漁況



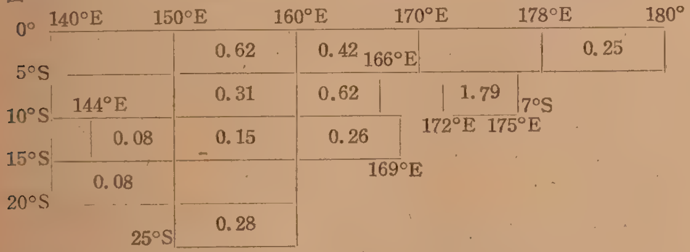
160°Eが4.26の高率である。ニューカレドニア海区では、10月2.30の率であつた北西部のキハダが、ヨーク北島東岸と同様に1.43に減少している。ニュージーランド海区においてはキハダの漁獲は全くみられない。

ソロモン海区のキハダは南洋南部よりも小型で、0—5°Sでは101—110cm, 他の2海域では111—120cmに体長組成の山があつて、いづれも10月と同様に120cm以下の小型若年魚が半数を占めている。ニューカレドニア海区では、10月にみられた111—120cmの山がなくなり、131—140cmの山はかわらず中型魚が多い。

(メ　バ　チ)

ソロモンのメバチは不漁で海区平均0.35に過ぎず、ソロモン諸島の東側で0.62の漁獲があり、エリス諸島西北方の1隻は1.79と特にいちじるしい高率を得ている。ニューカレドニア海区は10月と同じく0.14の低率、ニュージーランド海区も10月と同率0.03で低い。

図 2. ソロモンおよびニューカレドニア海区におけるメバチの漁況



体長組成は、ソロモン海区においては若年魚の増加が目立ち0—5°Sと5—10°Sの海域では101—110cmに組成の山があらわれ、10—15°Sでは111—120cm の小型が組成の中心となつている。ニューカレドニア海区においては中型大型魚が増加し111—120cmの山は変化ないが、141—150cmに第1の山があらわれて25.7%を占めている。

(ビ　ン　ナ　ガ)

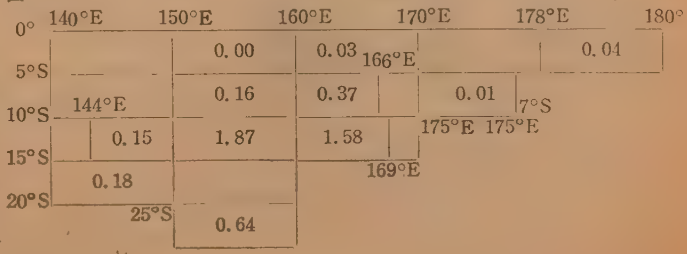
ソロモン海区におけるビンナガは不漁にあり、0—5°S, 5—10°Sではそれぞれ 0.03 0.17と低率、10—15°Sの海域は0.97で10月0.38より増加し、例年より早く増加過程に入るかも知れない。ニューカレドニア海区では10月に激減して不漁期に入り11月も0.42の低率、次第に上昇して初夏の好漁に向うであろう。一方、ニュージーランド海区では上昇過程にあり、11月は0.99と10月より増加、12月はさらに高率となろう。

体長組成は、ソロモン海区0—5°Sにおいては調査尾数極めて少く、5—10°Sでは 81—90cm, 10—15°Sの海域とニューカレドニア海区では91—100cmに山があつて、30年31年11月と同形、ニュージーランド海区は小型が多く71—80cmに山がある。

(インド マグロ)

ニュージーランド海区のノース•アイランド北方海域におけるインドマグロの好漁は、11月に入つて平均7.86と減少、4.63の低率を得た船もあつた

図 3. ソロモンおよびニューカレドニア海区におけるビンナガの漁況



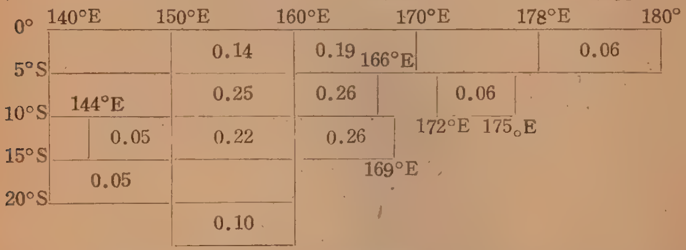
35°S以南は5.35, 以北6.40よりも低く、冬季に向つて漸次低下して行くであろう。

この海区のインドマグロの体長組成は特徴的で、120cm以下が調査尾数の46.0%に達し、他海区に比してもつとも小型になつていろ。

（クロカワ、シロカワ、マカジキ）

10月にひき續きクロカワは各海区とも不漁で、僅かにソロモン諸島西側海域で增加して0.25, 東側では5—15°Sで0.26の率を示しているに過ぎない。ソロモン海区10—15°S の海域およびニューカレドニア海区ではシロカワの好漁があり、前者は0.82, 後者は0.83を示している。ニューカレドニアのシロカワは10月0.81と変らず好漁であるが昨年、一作年同期のような高率が得られない。15—20°S, 140—150°Eでは1.01と最も高い。同海区のマカジキは高率期であるにもかかわらず10月は0.08と低率であつたが11月は0.37を示している。12月は0.5程度にまで增加するであろう。

図 4. ソロモンおよびニューカレドニア海区におけるクロカワの漁況



ソロモン海区のクロカワは、0—5°S では特に小型で 141—150cm に体長組成の山があり、第 2 の山が191—200cmにある。5—10°Sおよび10—15°Sでは161—170cmに第 1 の山、201—210cmに第 2 の山がみられ、151—170cm の小型魚が40—50% に達している。ニユーカレドニア海区の組成の山は、ソロモン海区 5—10°S, 10—15°S の海域と同様であるが、ソロモンに比して大型が多く37.7%を占めている。シロカワはソロモン海区10—15°Sにおいては181—190cmおよび191—200cmにそれぞれ13.3% の山があり、151—160cmに第2の山があつて、ニユーカレドニア海区では10月よりやや大型が增加している。同海区のマカジキは中型、小型があらわれたが、9 月、10 月と同形である。

H. 東部印度洋漁場

（バンダ•フロレス海区、小スンダ•チモール海区、
濠洲西方海区、スマトラ西岸沿海）

バンダ•フロレス海区では10月にひき続いて 1 隻、小スンダ•チモール海区では南西部の10—15°S, 117—118°Eで 1 隻、濠洲西方海区においては 15—20S, 115—120Eで 2 隻さらにスマトラ西岸沿海南部の 96—100°E で 1 隻が調査された。小スンダ•チモール海区南西部では南西流、濠洲西方海区北東部では、オーストラリア沿岸に沿つて北上する海流と、その沖合を南下する海流が観測され、スマトラ西岸沿海においては南東—南西の弱流であつた。詳細は漁場圖を参照されたい。

（キ　ハ　ダ）

バンダ•フロレス海区のキハダは高率期となつて、10月3.45からさらに激增11月6.62といちじるしい高率を示した。これは一時的な異常現象で 12 月には減少をみせるで

あろう。小スンダ•チモール海区における11月の釣獲率は0.81の低率にとどまつた。また、濠洲西方沿海海区では、9月1.58と変らず11月1.59で昨年同期より高い。両海区とも12月にはなお増加するであろう。スマトラ西岸沿海南部においては11月2.81と高率で、12月もほぼ同様の率が続く見込である。

バンダ•フロレス海区におけるキハダの体長組成は、本年5月および昨年の傾向に比して小型となり、101—110cmに42.9%の山があらわれている。濠洲西方海区では141—150cmの大型に山があり、従来と同様の傾向である。

（メ　バ　チ）

バンダ•フロレス海区10月1.83の高率は、冬季に入るに従つて次第に減少するものと思われたが、11月に急減して0.17の低率となつた。小スンダ•チモール海区および濠洲西方海区においてもそれぞれ0.38, 0.18の低率で、スマトラ西岸沿海海区のみが高率期にあつて1.88の好漁である。12月には同程度の率を示すか、或いは低減過程に入るであろう。濠洲西方海区においては131—140cmの体長範囲に組成の山があつて23.0%，従来とおおむね同様である。他海区の体長組成は調査できなかつた。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガは、小スンダ•チモール海区において9月より不漁期にあり11月も0.18の低率、来年3—4月頃まで不漁が続くであろう。濠洲西方およびスマトラ西岸沿海海区においても不漁で、それぞれ0.51, 0.34を示している。スマトラ西岸沿海では、12月に1.0程度にまで増加するかも知れない。濠洲西方海区では101—110cmの中型魚が調査尾数の半ばを占めている。

（インド　マグロ）

小スンダ•チモール海区のインドマグロは最盛期を過ぎたが1.86の率でまだ好漁、濠洲西方海区では盛漁期前と思われ0.49を示している。

魚体は、小スンダ•チモール海区においては他海区より大型で、11月は161—170cmに33.9%の山があらわれ、151—160cmの体長範囲のものが33.3%を占めて、従来に比較して大きな変化はない。

（カ　ジ　キ　類）

クロカワは各海区とも不漁、シロカワはバンダ•フロレス海区、小スンダ•チモール海区およびスマトラ西岸沿海海区においては低率、濠洲西方海区は0.45の率で12月にはさらに上昇するかも知れない。マカジキは濠洲西方海区で盛漁期となり、1.26といちじるしい好漁が得られた。また、バンダ海のバショウも1.05を示して高率である。

濠洲西方のシロカワの体長組成は、141—150cm, 191—200cm, 221—230cmにそれぞれ第1, 第2, 第3の山があり従来と変りない。同海区のマカジキは9月と同様に151—160cmに山があらわれやや小型である。

I. 西部印度洋漁場

（西部印度洋海区）

11月の西部印度洋漁場においては西部印度洋海区北東部の5—12°S, 61—71°Eで2隻

が調査されている。体長組成調査は実施できなかつた。

（キ　ハ　ダ）

西部印度洋海区のキハダは、7月北部8月北西部でそれぞれ2.34, 2.43と従來にない不漁となり、11月も依然として2.65の低率である。調査船2隻のうち、やや東寄りに操業した1隻は3.50と高い。12月には高率期に入り増加するであろう。

（メ　バ　チ）

メバチは好漁末期に当るが0.55と低く、本年9月10月には高率が得られなかつたのかも知れない。12月からは不漁が続くでやろう。

（ビ　ン　ナ　ガ）

この海区における本年のビンナガは高率で、8月には3.98の好漁であつた。11月は不漁期でであるが海区平均2.43, 調査船2隻のうち1隻は2.80の率である。次第に不漁に向う見込である。

（カ　ジ　キ　類）

クロカワは3月から7月までは0.5程度の率が続いていたが、8月0.13と低下、11月は0.06といちじるしい不漁になつた。マカジキは0.18でこの海区としてはやや好漁である。

J. 大西洋漁場

（アマゾン海区）

大西洋漁場では始めてアマゾン瑚区が調査され、1隻が2—4°N, 37—36°W で操業している。操業海域は南赤道流と赤道反流の收れん線附近で、南赤道流に屬するようである。海流については圖5を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

アマゾン海区のキハダは夏季の盛漁期を過ぎて不漁かと思われたが、11.41を示して極めて高率であつた。

（メ　バ　チ）

30°W以西の南赤道流域アマゾン海区における11月のメバチは、豫想に反して0.10と低く、30°W以西の赤道反流域と似た傾向を示している。

（ビンナガ、クロカワ、マカジキ）

ビンナガは0.99, クロカワ0.28とともに低率で冬季に向つて増加が見込まれ、マカジキは0.07で極めて低率を示しているが、2, 3ヶ月内に相当の上昇を示すであろう。

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま きはだ	めばち
0— 20N 140—120W	5— 8N 134—126W	1	28.2 9.6	ESE 0.5—1.5 E—SE/S 0.7—2.0	15	6,000	26,795	尾数 %	379 1.41	220 0.82
ガラパゴス	8— 9S 120—115W	1	25.1 7	—	26	10,590	42,360		1116 2.63	1021 2.41
0— 15S 140—120W	6— 11S 140—136W	2	27.1 9.3	S/E—W 0.3—0.8	41	17,448	80,942		1592 1.97	957 1.18
アルキペラゴ	17— 22S 145—138W	1	24.1 5.3	—	20	8,000	32,000		198 0.62	118 0.37
30— 40N 180—140W	30— 34N 180—141W	19 (14)	17.9 24.0	—	274	97,082	421,360		43 0.01	9221 2.19
ミッドウエー	27— 31N 180—159W	4	21.1 4.8	SE	60	18,786	84,850		367 0.43	958 1.13
ハワイ南西 (5°N 以北)	3— 12N 180—164W	3	28.0 30.2	—	75	119,248	119,248		1232 1.03	1546 1.30
ハワイ南西 (5°N 以南)	2— 7N 180—172W	1	28.3 30.3	—	30	11,405	45,620		1032 2.26	414 0.91
0— 15S 160—140W	10— 11S 143—141W	1	27.9 9.3	—	20	4,800	24,000		420 1.75	233 0.97
タヒチ	16— 21S 161—136W	6	24.9 8.7	SE 0.2—0.7 WSW 0.2—0.6	157	62,917	280,891		2088 0.74	792 0.28
トンガ	18— 22S 180—176W	3	24.5 7.1	NE 0.6 SSW 0.4 W/S 0.3	20	6,629	33,140		262 0.79	35 0.11
チヤタム	35— 38S 179E—167W	7		NNE NE.N NWW SW SSW 0.2-0.6	206	7,407	370,350			23 0.01
30— 35N 150—180E	31— 34N 175—180E	1	18.7 21.4	—	25	8,582	34,328		1 0.00	551 1.61
西部太平洋 (170°E以西)	19—25N 144—155E	2	25.3 8.2	NE 0.5 1.0	39	9,761	34,444		70 0.20	259 0.75

(昭和32年11月操業分)

(別表1) A

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
			93 0.35	3 0.01	12 0.04	3 0.01					710 2.65	鮫未調査隻数 1 体長測定隻数 0
			75 0.18	10 0.02	17 0.04	12 0.03		216 0.51	193 0.46		2660 6.28	1 0
139 0.17			248 0.31	12 0.01	24 0.03	11 0.01			6 0.01	6 0.01	2995 3.70	1 2
587 1.83			402 1.26	2 0.01	31 0.10	8 0.03			103 0.32	131 0.41	1580 4.94	0 1
3495 0.83	1 0.00		47 0.01	5 0.00	171 0.04	71 0.02			403 0.10	523 0.12	13980 3.32	5 12
11 0.01			23 0.03	2 0.00	20 0.02	10 0.01		5 0.01	84 0.18	65 0.08	1545 1.82	1 0
30 0.03			259 0.22	7 0.01	31 0.03	8 0.01	58 0.05		117 0.10	6 0.01	3294 2.76	2 1
4 0.01			240 0.53	2 0.00	11 0.02	7 0.02	36 0.08			80 0.18	1826 4.00	0 1
1288 5.37			49 0.20	1 0.00	8 0.03				3 0.01	15 0.06	2017 8.40	0 1
5570 1.98		1	3585 1.28	46 0.02	199 0.07	35 0.01	27 0.01		245 0.09	256 0.09	12844 4.57	5 2
495 1.49			153 0.46	24 0.07	95 0.29	6 0.02	24 0.07	2 0.01	33 0.10	1 0.00	1130 3.41	2 1
3789 1.02	3 0.00	24905 6.72			1 0.00	6 0.00			165 0.04	441 0.12	29333 7.92	2 3
740 2.16			3 0.01		28 0.08	9 0.03			152 0.44	66 0.19	1550 4.52	
14 0.04			11 0.03		121 0.35	4 0.01			5 0.01	372 1.08	856 2.49	

漁　場	操業区域	調査 隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業 回数	漁具数	鈎　数		ま	
									きはだ	めばち
南洋南部 (170°E以東)	3— 11N 174E—176W	4	28.1 9.6	NE ENE 0.7 2.0	72	27,447	123,475	尾数 %	1120 0.91	1722 1.39
南洋南部 (170°E以西)	0— 10N 133—171E	11	27.8 9.9	E—S/E 1.0—1.5 SW NE 0.4	202	80,705	323,356		4188 1.30	4263 1.32
ソロモン	0— 18S 144—180E	50 (35)	27.4 31.7	WNW 0.3 -0.5 S,SE 0.5-1.0 S,NW WSW 0 3 -1.7	635	233,328	1123,880		48538 4.32	3956 0.35
ニュー カレドニア	13— 26S 144—158E	11	24.1 28.3	ESE- SW-WSW 0.5—2:0	251	115,255	417,494		5957 1.43	576 0.14
ニュー ジーランド	32— 38S 175—180E	4	15.2 27.5	N/W SW 0.3—1.3	101	38,068	171,865			55 0.03
バンダ	4— 7S 121—127E	1	27.9 30.1	NW NNW SE—SW 0.5—1.4	26	10,735	42,940		2841 6.62	74 0.17
小スンダ	10— 15S 117—118E	1	28.3 29.5	SW 0.3	7	2,700	12,153		98 0.81	46 0.38
濠洲西方	15— 20S 115—120E	2	25.5 9.1	SW 0.3 NE-E 0.5	31	12,246	58,035		925 1.59	102 0.18
スマトラ	7— 9S 96—100E	1	27.0 7.8	SE SW 0.5	10	4,000	20,000		561 2.81	375 1.88
西印度	5— 12S 61— 71E	2	26.2 27.8	SW 0.4	47	14,445	85,900		2274 2.65	472 0.55
アマゾン	2— 4N 37— 36W	1	27.0 28.1	SW S 1.0-1.6	28	9,000	36,000		4109 11.41	37 0.10
計	**25**	140 (49)			2144	839,502	3,624,066		79368 2.19	18805 0.52

（別 表 1） B

ま ぐ ろ			か じ き					かつお	雑	さめ	計	記 事	
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう						
20 0.02			298 0.24	3 0.00	13 0.01	9 0.01	53 0.04		22 0.02	766 0.62	4026 3.26	鮫未調査隻数 体長測定隻数	1 3
117 0.04			1146 0.35	20 0.01	23 0.01	23 0.01	158 0.05	16 0.00	291 0.09	609 0.19	10854 3.33		4 6
2973 0.26			2320 0.21	1754 0.16	61 0.01	102 0.01	2762 0.25	67 0.01	797 ·0.07	509 0.05	63839 5.68		32 31
1771 0.42	1 0.00		337 0.08	3461 0.83	1524 0.37	91 0.02	59 0.01		279 0.07	165 0.04	14221 3.41		7 10
1705 0.99		13508 7.86	8 0.00		61 0.04	3 0.00			47 0.03	18 0.01	15405 8.96		3 4
7 0.02			72 0.17	10 0.02	4 0.01	1 0.00	452 1.05		750 1.75	227 0.53	4438 10.34		0 1
22 0.18		226 1.86	7 0.06	27 0.22		4 0.03		4 0.03	3 0.02	16 0.13	453 3.73		0 1
298 0.51		285 0.49	36 0.06	262 0.45	730 1.26	8 0.01	30 0.05	8 0.01	16 0.03	220 0.38	2920 5.03		1 1
68 0.34			16 0.08	14 0.07	39 0.20	1 0.01	2 0.01				1076 5.38		
2084 2.43			54 0.06	67 0.08	158 0.18	55 0.06	33 0.04		43 0.05	7 0.01	5247 6.11		1 0
357 0.99	1 0.00		100 0.28		25 0.07	1 0.00					4630 12.86		1 0
22089 0.61	6 0.00	38925 1.07	9535 0.26	5727 0.16	3236 0.09	417 0.01	3694 0.10	318 0.01	3354 0.09	3976 0.11	189449 5.23		70 81

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年11月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		50cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171cm以上	計	漁獲尾数
きはだ	2	0—15S 140—120W	6—11S 140—136W	41	尾数 %							1 0.5	11 5.1	32 14.8	83 38.4	71 32.9	18 8.3			216 100	1592
	1	アルキペラゴ	17—22S 145—138W	20											3 7.0	23 53.5	15 34.9	2 4.7		43 100	198
	1	30—40N 180—140W	30—33N 160—157W	27									2 25.0		1 12.5	3 37.5			2 25.0	8 100	12
	1	ハワイ南西 (5°N以北)	9—11N 180—178W	23				5 3.1	1 0.6	1 0.6	16 10.0	96 60.0	23 14.4	6 3.8	10 6.3	2 1.3				160 100	180
	1	ハワイ南西 (5°N以南)	2—7N 180—172W	30								36 29.8	28 23.1	52 43.0	5 4.1					121 100	1032
	2	タヒチ	16—21S 161—139W	74								2 1.2	21 12.7	42 25.3	42 25.3	44 26.5	14 8.4	1 0.6		166 100	1183
	1	トンガ	18—19S 178—177W	7								2 3.9	8 15.7	15 29.4	17 33.3	7 13.7	1 2.0		1 2.0	51 100	128
	3	南洋南部 (170°E以東)	3—11N 174E—176W	63							15 2.2	135 19.9	194 28.5	240 35.3	78 11.5	17 2.5		1 0.1		680 100	1063
	4	南洋南部 (160—170E)	1S—10N 159—170E	83						6 2.0	5 1.7	43 14.4	71 23.7	117 39.1	42 14.0	2 0.7		1 0.3	12 4.0	299 100	1434
	1	南洋南部 (150—160E)	0—8N 154—161E	16								46 25.6	36 20.0	83 46.1	15 8.3					180 100	342
	1	南洋南部 (130—140E)	4—8N 130—139E	22								3 3.8	26 32.5	35 43.8	10 12.5	3 3.8	3 3.8			80 100	182
	6	ソロモン (0—5S)	0—6S 157—180E	85						1 0.1	91 5.1	564 31.8	429 24.2	427 24.1	230 13.0	26 1.5	3 0.2	1 0.1		1772 100	7133
	9	ソロモン (5—10S)	4—13S 151—174E	152				3 0.1	5 0.2	15 0.5	94 3.1	503 16.8	796 26.6	776 26.0	471 15.8	235 7.9	76 2.5	10 0.3	3 0.1	2987 100	12320
	3	ソロモン (10—15S)	7—15S 144—160E	40							20 4.3	86 18.7	169 36.7	143 31.0	27 5.9	9 2.0	4 0.9	3 0.7		461 100	1559
	10	ニューカレドニア	13—26S 144—158E	232						1 0.1	91 5.2	32 1.8	316 18.0	365 20.8	425 24.2	373 21.3	136 7.8	13 0.7	1 0.1	1753 100	5381

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数		60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	バンダ	4— 7S 121—127E	26						26 10.0	36 13.8	112 42.9	47 18.0	24 9.2	16 6.1					261 100	2841
	1	濠洲西方	16— 20S 115—119E	17							2 0.8	2 0.8	25 10.6	42 17.8	45 19.1	93 39.4	27 11.4			236 100	558
	2	0— 15S 140—120W	6— 11S 140—136W	41	尾数 %					7 2.5	17 6.2	34 12.4	31 11.3	29 10.5	32 11.6	54 19.6	28 10.2	20 7.3	23 8.4	275 100	957
	4	30— 40N 150—140W	31— 33N 150—141W	68					3 0.4	67 8.2	13 1.6	41 5.0	219 26.6	269 32.7	136 16.5	44 5.4	21 2.6	7 0.9	2 0.2	822 100	2198
	3	30— 40N 160—150W	30— 33N 160—150W	57					3 0.2	88 7.2	53 4.4	85 7.0	307 25.3	413 34.0	123 10.1	63 5.2	60 4.9	17 1.4	3 0.2	1215 100	2492
め	4	30— 40N 180—170W	31— 34N 180—174E	77				1 0.1	13 1.3	64 6.2	38 3.7	288 27.8	403 39.0	116 11.2	33 3.2	51 4.9	15 1.4	6 0.6	6 0.6	1034 100	2278
	1	ハワイ南西 (5°N 以北)	9— 11N 180—178E	23						2 1.0	4 1.9	25 11.9	88 41.9	40 19.0	18 8.6	9 4.3	13 6.2	7 3.3	4 1.9	210 100	683
	1	ハワイ南西 (5°N 以南)	2— 7N 180—172W	30							31 21.1	48 32.7	12 8.2	13 8.8	23 15.6	13 8.8	4 2.7	3 2.0		147 100	414
	1	タヒチ	17— 21S 145—139W	40							2 6.5	1 3.2	3 9.7	3 9.7	7 22.6	7 22.6	7 22.6	1 3.2		31 100	226
	1	トンガ	18— 19S 178—177W	7									1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1				9 100	10
ば	3	南洋南部 (170°E以東)	3— 11N 174E—176W	63					1 0.1	36 5.1	102 14.4	165 23.3	136 19.2	149 21.0	84 11.8	21 3.0	8 1.1	4 0.6	3 0.4	709 100	1514
	4	南洋南部 (160-170E)	1S— 10N 159—170E	83						13 3.3	60 15.3	124 31.6	71 18.1	60 15.3	34 8.7	12 3.1	1 0.3	1 0.3	16 4.1	392 100	1602
	1	南洋南部 (150-160E)	0— 8N 154—161E	16							45 19.8	73 32.2	31 13.7	33 14.5	1 0.4			2 0.9	42 18.5	227 100	272
	1	南洋南部 (130-140E)	4— 8N 133—139E	22									14 16.3	42 48.8	23 26.7	6 7.0		1 0.2		86 100	349
ち	5	ソロモン (0— 5S)	0— 6S 153—172E	71					7 1.8	45 11.7	108 28.0	98 25.4	57 14.8	45 11.7	23 6.0	3 0.8				386 100	749
	7	ソロモン (5—10S)	4— 13S 151—174E	121			4 1.0	1 0.3	9 2.3	32 8.0	122 30.7	102 25.6	35 8.8	41 10.3	38 9.5	14 3.5				398 100	874

	2	ソロモン (10—15S)	7—15S 145—160E	26					1	8	8	17	4	2	5	3				48	86
									2.1	16.7	16.7	35.4	8.3	4.2	10.4	6.2				100	
	8	ニューカレドニア	13—26S 144—158E	189				1	3	9	17	35	26	40	62	36	10	2		241	439
								0.4	1.2	3.7	7.1	14.5	10.8	16.6	25.7	14.9	4.1	0.8		100	
	1	濠洲西方	16—20S 115—119E	17						8	4	24	27	28	18	12	1			122	155
										6.6	3.3	19.7	22.1	23.0	14.8	9.8	0.8			100	

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数		40 cm 以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm 以上					計	漁獲尾数
びんなが	4	30—40N 180—170W	30—33N 180—174W	87	尾数					11	146	396	155	15						723	2408
					%					1.5	20.2	54.8	21.4	2.1						100	
	1	トンガ	18—19S 178—177W	7								44	27	1						72	135
												61.1	37.5	1.4						100	
	1	チャタム	35—38S 180—170W	35					10	66	35	9	2							122	756
									8.2	54.1	28.7	7.4	1.6							100	
	1	ソロモン (0—5S)	1—4S 169—172E	14							6			1						7	7
											85.7			14.2						100	
	5	ソロモン (5—10S)	4—13S 151—174E	100						9	284	164	2							459	726
										2.0	61.9	35.7	0.4							100	
	2	ソロモン (10—15S)	10—13S 153—157E	17							40	68	2							110	798
											39.4	61.8	1.8							100	
	2	ニューカレドニア	19—26S 153—156E	44					1	25	146	227	32							431	703
									0.2	5.8	33.9	52.7	7.4							100	
	1	ニュージーランド	34—36S 177—180E	10					6	33	15	9	2							65	187
									9.2	50.8	23.1	13.8	3.1							100	
	1	濠洲西方	16—20S 115—119E	17							3	26	40	11						80	150
											3.8	32.5	50.0	13.8						100	

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		120 cm 以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm 以上	計	漁獲尾数
いんどまぐろ	3	チャタム	35—38S 179—169W	97	尾数	228	260	360	233	74	16	14								1185	12336
					%	19.2	21.9	30.4	19.7	6.2	1.4	1.2								100	
	4	ニュージーランド	32—38S 175—180E	101		307	161	113	61	23	2									667	13508
						46.0	24.1	16.9	9.1	3.4	0.3									100	
	1	小スンダ チモール	10—15S 117—118E	7				1	48	57	58	7								171	226
								0.6	28.1	33.3	33.9	4.1								100	

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数		130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
く	2	0—15S 140—120W	6—11S 140—136W	41	尾数 %		1 0.8		4 3.4	14 11.9	21 17.8	21 17.8	22 18.6	9 7.6	5 4.2	4 3.4	8 6.8	3 2.5	2 1.7	4 3.4	118 100	248
	1	アルキペラゴ	17—22S 145—138W	20					1 3.8	13 50.0	6 23.1	4 15.4	2 7.7								26 100	402
	2	30—40N 150—140W	31—33N 150—144W	29									1 5.9	2 11.8	5 29.4	2 11.8	3 17.6		2 11.8	2 11.8	17 100	19
	3	30—40N 160—150W	30—33N 179—150W	63								1 9.1	1 9.1	2 18.2	4 36.4			2 18.2	1 9.1		11 100	11
ろ	1	ハワイ南西 (5°N以南)	2—7N 180—172W	30				5 9.8	8 15.7	21 41.2	2 3.9	3 5.9	4 7.8	2 3.9	2 3.9		2 3.9	1 2.0	1 2.0		51 100	240
	2	タヒチ	16—21S 161—139W	74		1 0.6	4 2.3	2 1.1	3 1.7	11 6.3	24 13.7	41 23.4	38 21.7	6 3.4	4 2.3	7 4.0	11 6.3	9 5.1	3 11.7	11 6.3	175 100	1638
	1	トンガ	18—19S 178—177W	7				1 1.6	2 3.2	27 42.9	19 30.2	11 17.5	2 3.2					1 1.6			63 100	63
か	3	南洋南部 (170E以東)	3—11N 174E—176W	63		9 5.2	20 11.6	29 16.9	29 16.9	40 23.3	9 5.2	4 2.3	6 3.5	10 5.8	6 3.5	5 2.6	2 1.2	1 0.6	1 0.6	1 0.6	172 100	241
	4	南洋南部 (160-170E)	1S—10N 159—170E	83		4 2.0	24 12.2	41 20.9	52 26.5	46 23.5	7 3.6	5 2.6	5 2.6	2 1.0	2 1.0	4 2.0	2 1.0	1 0.5		1 0.5	196 100	575
	1	南洋南部 (150-160E)	0—8N 154—161E	16		10 18.5	3 5.6	10 18.5	9 16.7	12 22.2	2 3.7	2 3.7	3 5.6	1 1.9	1 1.9		1 1.9				54 100	56
	1	南洋南部 (130-140E)	4—8N 133—139E	22		5 20.0	4 16.0	4 16.0	5 20.0	4 16.0		1 4.0	1 4.0	1 4.0							25 100	25
わ	6	ソロモン (0—5S)	0—6S 153—172E	89		9 5.9	20 13.2	41 27.0	22 14.5	19 12.5	3 2.0	10 6.6	13 8.6	4 2.6	5 3.3	5 3.3	1 0.7				152 100	254
	9	ソロモン (5—10S)	5—13S 146—163E	146			27 6.6	56 13.6	85 20.7	100 24.3	28 6.8	20 4.9	23 5.6	29 7.1	18 4.4	14 3.4	5 1.2	3 0.7	1 0.2	2 0.5	411 100	748
	3	ソロモン (10—15S)	7—15S 144—160E	40		1 1.6	2 3.1	8 12.5	13 20.3	19 29.7	8 12.5	7 10.9	1 1.6	3 4.7	1 1.6	1 1.6					64 100	76
	8	ニューカレドニア	13—26S 144—158E	191		2 1.1		7 3.9	17 9.6	34 19.1	14 7.9	18 10.1	19 10.7	28 15.7	23 12.9	6 3.4	6 3.4	1 0.6		3 1.7	178 100	247
	1	濠洲西方	16—20S 115—119E	17					1 2.1	4 8.3	7 14.6	9 18.7	7 14.6	5 10.4	4 8.3	6 12.5	5 10.4				48 100	53

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	バンダ	4—7S 121—127E	26			1 6.7	6 40.0	3 20.0	3 20.0	2 13.3									15 100	72
	2	0—15S 140—120W	6—11S 140—136W	41				1 25.0						1 25.0		1 25.0			1 25.0	4 100	12
	1	30—40N 160—150W	31—32N 159—150W	17											1 100					1 100	1
し	1	タヒチ	17—21S 145—139W	40												1 100				1 100	10
	1	南洋南部 (170°E以東)	5—9N 177—179E	27					2 100											2 100	2
ろ	2	南洋南部 (160—170E)	3—10N 159—165E	40				1 50.0						1 50.0						2 100	3
	1	南洋南部 (150—160E)	0—8N 154—161E	16															1 100	1 100	6
	1	南洋南部 (130—140E)	4—8N 133—139E	22			1 33.3			1 33.3				1 33.3						3 100	3
か	4	ソロモン (0—5S)	0—6S 153—172E	63			1 11.1	5 55.5		2 22.2	1 11.1									9 100	24
	5	ソロモン (5—10S)	5—13S 151—163E	100			4 9.1	13 29.5	2 4.5	2 4.5	2 4.5	3 6.8	1 2.3	2 4.5	1 2.3	1 2.3	1 2.3	4 9.1	8 18.2	44 100	90
わ	4	ソロモン (10—15S)	7—17S 145—157E	54		1 0.7	2 1.4	17 11.9	14 9.8	12 8.4	19 13.3	19 13.3	14 11.2	10 7.0	5 3.5	6 4.2	6 4.2	6 4.2	10 7.0	143 100	837
	10	ニュー カレドニア	13—26S 144—158E	232			12 1.3	63 7.1	81 9.1	117 13.1	111 12.4	103 11.5	111 12.4	68 7.6	51 5.7	38 4.3	25 2.8	22 2.5	91 10.2	893 100	3112
	1	濠洲西方	16—20S 115—119E	17	1 0.6	23 14.0	35 21.3	12 7.3	2 1.2	4 2.4	10 6.1	19 11.6	13 7.9	14 8.5	17 10.4	7 4.3	4 2.4	2 1.2	1 0.6	164 100	270

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
	2	0—15S 140—120W	6—11S 140—136W	41							1 8.3		1 8.3	4 33.3	6 50.0					12 100	24
ま	1	アルキペラゴ	17—22S 145—138W	20									1 2.6	6 15.4	17 43.6	13 33.3	2 5.1			39 100	49

か	1	30— 40N 150—140W	31— 33N 150—148W	20						3 30.0	1 10.0	2 20.0	4 40.0						10 100	13
	1	30— 40N 160—150W	30— 33N 160—157W	27							2 40.0	1 20.0	2 40.0						5 100	5
	3	30— 40N 180—170W	31— 34N 180—170W	50				1 2.2	2 4.4	4 8.9	4 8.9	10 22.2	13 28.9	9 20.0	2 4.4				45 100	45
	1	ハワイ南西 (5°N 以南)	2— 7N 180—172W	30									2 66.7	1 33.3					3 100	11
じ	2	タ ヒ チ	16— 21S 161—139W	74					2 9.5	1 4.8			6 28.6	3 14.3	3 14.3	6 28.6			21 100	92
	1	ト ン ガ	18— 19S 178—177W	7									5 31.3	3 18.8	5 31.3	3 18.8			16 100	26
	2	南洋南部 (160—170E)	1S— 8N 165—170E	43							1 33.3	2 66.6							3 100	5
き	1	南洋南部 (150—160E)	0— 8N 154—161E	16						1 100									1 100	1
	1	ソロモン (5—10S)	5— 9S 151—155E	8								1 100							1 100	1
	1	ソロモン (10—15S)	11— 17S 145—154E	18							1 50.0		1 50.0						2 100	3
	5	ニューカレドニア	14— 26S 146—158E	108			1 0.1	4 0.5	3 0.4	9 1.2	13 1.7	20 2.7	54 7.3	181 24.4	278 37.4	114 15.3	38 5.1	28 3.8	743 100	1457
	1	濠洲西方	16— 20S 115—119E	17			3 1.1	20 7.7	14 5.4	89 34.1	56 21.5	57 21.8	20 7.7	2 0.8					261 100	274

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数	80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾数
め	1	30— 40N 150—140W	31— 33N 150—148W	20			1 14.3	1 14.3			1 14.3	1 14.3	1 14.3					2 28.6	7 100	7
	1	30— 40N 160—150W	30— 33N 160—157W	27							2 50.0	2 50.0							4 100	4
か	3	30— 40N 180—170W	31— 34N 180—174W	50			6 18.2	2 6.1	6 18.2	6 18.2	4 12.1	1 3.0	2 6.1	4 12.1	2 6.1				33 100	38
じ	3	ソロモン (5—10S)	5— 13S 151—163E	65			1 20.0		2 40.0	1 20.0		1 20.0							5 100	9

き	2	ソロモン (10—15S)	10—15S 144—157E	22								2 50.0	2 50.0						4 100	5
	2	ニユーカレドニア	13—26S 144—156E	69						2 9.5		3 14.3	2 9.5	2 9.5	2 9.5		2 9.5	3 14.3	5 23.8	21 100	34
	1	濠洲西方	16—20S 115—119E	17						2 10.5	2 10.5	3 15.8	2 10.5	3 15,8	2 10.5	1 5.3	2 10.5	1 5.3	1 5.3	19 100	19

暑 中 御 伺

1958年盛夏

日本輸出冷凍鮪販賣株式會社

取締役社長　中　部　謙　吉

東京都千代田區霞ヶ関三丁目三番地　(鋼鈑ビル)

電　話　(59)　8586—7番
　　　　　　　8848—9番

漁船の冷凍装置に定評ある

日　新　興　業　株　式　會　社

本　　社　大阪市北區中之島2の3　(朝日ビル) TEL. 北濱(23)9736—7 (直通)
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央區銀座西6の3　(朝日ビル) TEL. 銀座(57)6804. 6810. 6811
清水出張所　清水市三保本村四區　TEL. 清水(2)　3507
三崎サービスステーション　三浦市三崎町西野34金指造船三崎出張所内　TEL. 2851

株　式　会　社

横　濱　銀　行　三　崎　支　店

神奈川県三浦市三崎町花暮123番地

電　話　2800—4番

暑中御伺

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵

設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京（866）0996・0997番

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産　一七屯 ――― 冷蔵収容量　六〇〇屯
製氷能力　日産　五〇屯 ――― 貯氷能力　五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）2609・2655番

会員レポート

会員　伊藤定規　（第7昭福丸漁撈長）—(第11号)—

サンゴ海クックタウン沖の10月から11月にかけての海況と漁況

シロ皮の魚体大きく，そのため投縄時において，釣元ワイヤーブランを切断して1回に15～20尾が逃げた．

今年のサンゴ海のシロ皮操業は，前年のごとき豊漁は見られず，又操業船は20隻であるが，各船の差なく平均1,000〆前後，操業開始も，昨年の如く10月初旬より始めるも終漁期に入った11月末日頃迄，1回に2,000〆漁獲されたことは全然なく，操業はアラフラ海入口より，18°30′S．148°30′E 付近迄豪洲東岸にそい行われた．

この付近の海潮流は，周年見られる如く，陸岸にそい，ＳＥ～Ｓ～ＳＳＥ～ＳＥ流で，流速は0.5～1.3M程度，水温は10月初旬より11月3日頃迄は，26.0°代であったが，太陽赤緯の南下と共に急昇し，27.0°代となる．中層水温は30ピロ迄は変化なし，40ピロにおいて表温上層水温より4～5′低い．

他方南部の20°Ｓ以南の，マカジキ操業も，例年の如き見るべきものはない．

30°Ｓ以南のマグロ操業はしごく良好，使用水帯は，15.5～16.5°代．

ニューギニア，ソロモン西部，ニューブリテン付近のキハダ操業は高率，特に10月初旬ニューギニア南岸，144～153°Ｅ．10°～11°Ｓ間は，もっとも高率，但し11月に入り低下した．10月中は低調であった．ニューブリテン海域は11月に入りキハダ（小型魚が主体）好漁となる．11月中のサンゴ海，ソロモン海の操業船70隻，そのうち20隻位シロ皮操業で，他はほとんどキハダ操業船である．

会員　小笠原福男　（第1成洋丸船長）—(第12号)—

ブーゲンビル南方海域の11月の海況と操業船の分布

1）前半は天候不良で連日風波が高く驟雨が多かった．

2）付近に操業船が数隻あったが，次第に北上してニューブリテン島近くに移動した．

3）往路は比較的天候にめぐまれたが，復航は貿易風，季節風共に強かった．

鮪類標識放流について

◇昭和33年5月16日から6月16日迄に放流実施の報告のあった船数は1隻．魚体数は2尾である．

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
宮城丸	O1056～60	33. 1. 12 14 18	8°～10°S 129°～130°E	キハダ（5）
〃	X0038	33. 4. 9	16°36′N 86°40′E	キハダ（1）

印度洋低緯度海域で採集したメカジキ Xiphias Gladius の幼魚について

榎田昭一，高原　正，岡田徳之助
（和歌山県水産試験場）

本種幼稚魚に関する報告は Lutken（1880），中村（1935），矢部（1951，53），中村外8名（1951），藪田（1953）等によって報告されている．

しかし，これらの報告は Lutken の大西洋産のものを除けば，いづれも北太平洋および南洋諸島近海のものである．

筆者等は1957年6～8月に主として中部および東部印度洋海域にかけて資源調査に従事し，標記海域から特にメカジキ Xiphias Gladius の幼魚を多数採集したので報告する．

なお，標本の1部を念のため南海区水産研究所に送付してメカジキ幼魚の有無を査定して頂いたところ，メカジキの幼魚と同定された．査定に当られた遠洋資源部の方に記して謝意を表する．

1.　メカジキ幼魚の採集方法および海域

当調査に於いてカジキ幼魚の採集はカジキ類の胃袋を切開する方法と稚魚網（口径 1.5m 円錐形）の夜間曳網とを併用したが，メカジキ幼魚はクロカジキ，シロカジキ，マカジキの胃内容物として出現したものである．

カジキ類の胃内容物として出現したメカジキ幼魚は原形をとどめているものが多く，カジキ類の釣獲された付近の海域に生棲しているものと思われる．

以上の想定からメカジキ幼魚の出現海域をみると Maldive Is. 南端東西側すなわち 1°-36. 3N～0°-37.′7S，71°-23′E～84°E の海域である．

付近の表層水温は 28°C で，その水温帯は水深 110m 付近まで伸びていて，その付近は極めて顕著な躍層を形成させている．流向は西乃至北西流で流速平均 0.9kt である．

2.　採集に関する記載

胃袋を切開したカジキ類は293尾で，クロカジキ194尾，シロカジキ53尾，マカジキ31尾，メカジキ15尾であった．

この中メカジキ幼魚を捕食していたものは，クロカジキ12尾，シロカジキ1尾，マカジキ6尾，計19尾である．

メカジキ幼魚出現状態　　（体長は尾叉長　単位mm）

採集月日	採集海域	捕食魚		メカジキ幼魚		備考
		魚種	体長	平均体長	数	
7～4	0°-13.′7S，71°-23′E	マカジキ	1740	280	2	メカジキ幼魚と共にカツオ 210
	〃	〃	1760	309	1	
	〃	クロカジキ	1750	257	1	
～6	0°-27.′7S，74°-53.′0E	〃	1680	270	2	
～8	1°-31.′3N，75°-52.′0E	〃	1700	250 365	2	
	〃	〃	1820	250	4	
	〃	〃	1720	消化物	1	
～10	1°-12.′3N，78°-33′E	マカジキ	1830	260	1	

	1°-12.3N, 78°-33′E	クロカジキ	1770	不　明	2	
	〃	シロカジキ	1830	330	1	
～11	0°-26′N, 77°-51′E	クロカジキ	1940	190	1	メカジキ幼魚と共に カツオ 190
	〃	〃	1790	不　明	3	
～13	0°-12′N, 77°-42′E	マ カ ジ キ	1740	180	3	
	〃	クロカジキ	1700	200	1	
	〃	〃	1690	不　明	1	
～14	0°-03.′5N, 77°-42′E	〃	1830	250	1	
	〃	〃	2090	250	1	
～19	0°-27′S, 84°-11′E	マ カ ジ キ	1880	220	2	
～20	〃	〃	1700	300	1	体長は尾叉長
		19			31	単位　mm

本種の本邦近海における産卵期は，中村（1935）によれば8～9月頃と考えられている．中村他（1951）は，産卵は広大な海域に亘って長い期間行われ，矢部（1951）は，主要成育場は低緯度の熱帯海区であろうと想像している．

印度洋におけるメカジキ幼魚については，未だ報告をみないが，筆者等の採集資料から Maldive 島近海も有力な成育場であることが想像される．

――文　　献――

矢　部　　博　　1951 ： 魚類学雑誌　1（4）

〃　　　　　　　1953 ： 南海区水産研究所業蹟集　第1集

藪　田　洋　一　1953 ： 南海区水産研究所業蹟集　第1集

中　村　秀　也　1935 ： 水産研究誌　30（21～32）

中村広司　他　　1951 ： 魚類学雑誌　1（4）

Lutken　　　　　1880 ： 矢部（1951），中村他（1951）より転記

営　業　内　容

綿　　鮪延縄

クレモナ　綿撚糸

製造販売

倉敷レイヨン株式会社　クレモナ延縄指定工場

山田撚糸株式会社

本社工場　八尾市大字亀井　電話（東住吉）559・2113

東京営業所　東京都品川区西戸越二ノ六七二　電話（荏原）6533

「大西洋産カジキ２種について」の報文中の一部訂正について

会　員　　中　込　　淳　（神奈川県水産試験場）

先に，鮪漁業第49号誌上に大西洋に於けるカジキ２種の名前について報告したが，同報告の書翰の訳文中に一部不完全な部分があるとのことでこの程，ホワード氏から連絡（別掲）があったので，次の様に訂正する．

同報告（P. 23）の最下段の３行

「これら二人の著者は従来大西洋にのみ棲息すると考えられていた Blue marlin が太平洋にも産するものとし，しかも，これはクロカワと同一物であると考えています．上記の Rcyce 氏の研究は1955 年及びそれ以前になされたものです．」

（猶これが Morrow 氏により更に三転して Blue marlin とクロカワは別亜種であることが研究され，近く発表されることになっている．）

——書　翰——

June 10, 1958　　　　No. 8843

Editor, "Tuna Fishing"
The Investigative Society of Tuna Fishing
c/o Kanagawa Prefectural Experimental Station
Kanagawa-Ken, Japan

Dear Sir:

In the May issue of "Tuna Fishing", No. 49, 1958, I was most interested to see a copy of my letter of March 28, 1958, relative to the common names of the marlin being caught by your long-line fishery in the Atlantic. I am very mnch indebted to you for publishing it; it may help us get the various differences straightened out so that we all use the same names for the fish.

Attached to this letter is the translation of the letter into Japanese. It so happens that I have a graduate student working with me, and I feel from what he tells me, that part of what I intended to say has not perhaps been made entirely clear in the translation. Consequently, on the copy of the translation there are certain corrections made in Japanese by my co-worker, the Japanese graduate student.

Again I want to thank you very much for publishing my letter and the comment on it.

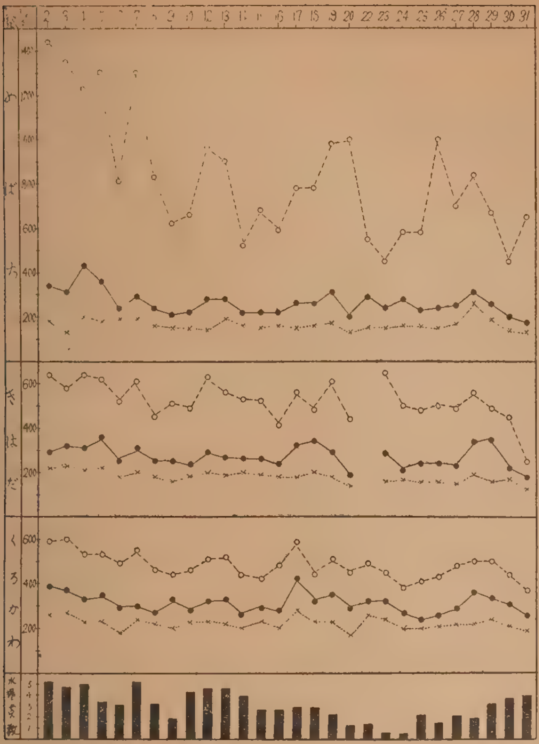
Yours sincerely,
John K, Howard

暑　中　御　伺

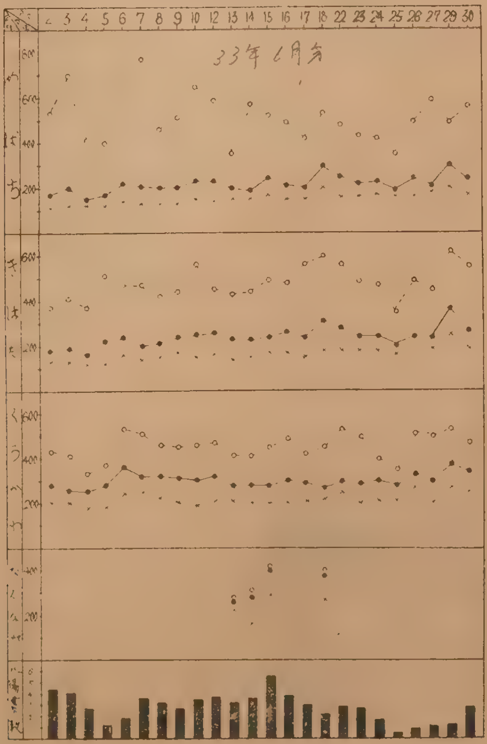
廻船魚問屋・罐 詰・鰹 節
遠 洋 漁 業・貿 易・餌 料　シェル石油株式会社代理店

株式会社　松　村　友　吉　商　店

静 岡 県 焼 津 市 築 港
電話（ヤイズ）代表 2141・2142・2143　罐詰工場 4115　4116　受信略号（ヤイズ10）



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十三年五月



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十三年六月

クジラの願い

「乙姫さま，乙姫さま，わたしを海へ帰して下さい．陸の景色も見飽きたし，食物も食べつくしました．それにきゅうくつできゅうくつで」　むかし，むかし，大昔，陸にあげられていたクジラがたまりかねて海岸へ来て乙姫さまにこうお願いしました。

「いいえ，なりません．お前は大そう大食いだから海へ入れると，他の魚たちが困ります」乙姫さまはなかなかお許しになりません．それでもクジラが泣いて頼むので，とうとう乙姫さまは鯨の歯を抜いて大きな魚は食べられないようにし（かめないと不消化になる）それでも食いしん坊のクジラ故，丸のままみつけ次第口に入れるといけないと見張り役にコバンイタダキというお魚をつけることにしました．この魚はイルカやカメなどの下腹にぴったりくっついてそれらが食べのこしたり，こぼしたりした食物を拾って生きています．

だからクジラはごぞんじのような大きな身体と口とを持っていながら，いわしのような小さな魚ばかり食べています．

「えーい！　執念深い奴だナ，いい加減にどこかへいってくれよオ」と思いながらもお腹の下のコバンイタダキを払いのけることも出来ないで南の海をのうのうと泳いでいるのです．　（松山市三津浜にて）

その手はくわん

或る漁師が沖でタコをとっていたところ，大きなタコが食物がなくなったので人間を食べてやろうと漁師めざして浮き上ってきた．それをみた漁師が

「お前，おれの命をとろうとするのか！」

といってタコの足を一本切ってしまった。

その翌日，また同じ場所でタコつりをしていると，きのうの大ダコが現れた．漁師はまた一本足を切りとった．そうして毎日々々タコは仇討ちしようと浮き上ってきては足をとられ，とうとう七本まで切られてしまった．怒りに狂った大ダコが最後の一本で漁師をやっつけようと猛然とかかってきたが，漁師は平然として

「イカの足をくってもその手はくわん」

といった．

その手はくわん——という言葉はそこからきたといわれています．　（北海道・函館にて）

業　界　メ　モ

1958年6月～7月

6月4日　新船第15全功[illegible]

三浦市奥津漁業第15全[illegible]日三崎を出港一路イタリヤに向いベニスを基地に四航海操業し来年9月三崎帰港の予定．同船は金指造船所で旧第8万栄丸を改造したもので特徴としては急速凍結室を増やして1日4,000貫（15トン）処理する能力を持っている．（港報）

6月14日　第3天洋丸船団好調

大洋漁業第十六次マグロ船団の母船第3天洋丸（3,700トン）は5月29日フイジー周辺の漁場についたが水揚開始後10日間で24万2千貫（907トン）を水揚し予期以上の成績と同社三崎営業所に連絡があった．（港報）

6月28日　緊急入域注意と航行禁止区域

米国政府は日本漁船に対し小笠原諸島父島方面への緊急入域について許可あるまで一応領海外で待機するようと警戒を発した．また去る6月25日から中部太平洋ジョンストン島周辺約172万平方キロの海域を（W169°31′, N16°41 を中心に半径400浬の海域）ミサイル弾発射実験のため船舶航行禁止区域とした．期間は3週間にわたるといわれる．（港報）

7月1日　船凍代表として菅野・滝口両氏渡米

全国輸出水産物冷凍組合のアメリカ水産事情視察団一行は7月末羽田発空路渡米するが一行のうち船凍業者代表には焼津漁協滝口専務と神奈川県鰹鮪協会長菅野進氏（本会会長）が選ばれ滞米約1ヵ月にわたって水産関係者と冷凍ビン長の輸出などについて意見を交換しさらに政府要路に対して輸出打開について陳情するがその成果が期待されている．（水経）

7月4日　相模丸ハワイ入港

東部太平洋の新漁場調査を続行中の神水試相模丸（700トン）は50回の操業を了へ帰途についたが途中ハワイに入港同地のアメリカ太平洋水産研究所その他一般水産施設などを視察して7月末には三崎帰港の予定である．（港報）

7月4日　大西洋の資源調査

水産庁では照洋丸（600トン）を使って太平洋並びに大西洋の大型魚族資源（マグロ，カジキ類）を調査する計画を進めている．調査海域の航程ははじめに太平洋のハワイ近海から行い大西洋は次回に行うがマグロ，カジキ，サメなどの漁場を重点的に調査するもので問題となっているタルタウ島基地建設の資料として充分こうけんするものとみられている．（水経）

7月7日　ビキニ南東航行中の貨物船強い放射能で退避

日東商船貨物船明和丸（4962トン）はニュージーランドから横浜へ向う途中6日朝ビキニの南東約1440キロの水域で海水と雨水が強い放射能を帯びていることを発見し進路を25度西へ転じた．同船の測定によればビキニ，エニウエトクの方向から流れてくる海流の放射能は1立当り毎分400カウント．尚米政府原子力委員会は日本時間6日午前4時半ビキニ環礁で第12回の核実験が行われたと発表している．（毎日）

鮪　漁　業

1958年7月号

昭和33年7月10日印刷
昭和33年7月10日発行

監　修　　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　　菅　野　　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　　鮪漁業研究会
（振替貯金口座 横浜 1472）

暑中御見舞申し上げます　—1958—

比重調整
樹脂加工

クレモナまぐろロープ

特徴

① まぐろの

うお願いしました。
お前は大そう大食いだか

② 毎航海の**タール**染不要
③ 他の追随を許さい耐久力と耐摩耗力

営業種目……**クレモナ**、綿延縄及び仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテックスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978・7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 2957番

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎(49)代表2171—9番 (49) 2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話 (36) 代表 0974—5 (36) 2171—9 (内線350—1)

暑中御見舞申し上げます —1958—

製　氷・冷　蔵・凍結装置
製　作・設　計・工事請負

株式会社　**中　須　製　作　所**

本　社　東京都丸ノ内三菱仲14号館3号
電　話　(28)　8730～5番
工　場　大田区原町177番地
電　話（73）3295・3922・3923番

営　業　品　目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装　備・補修一式

七洋電機株式会社

取締役社長　満本英一
取締役　橋本　清
取締役　長田　孝
本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原（712）2525・2526・3314番

緑星社のＳＶ６型ラジオブイ
用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕　鯨・底曳トロール
漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社　**緑　星　社**

代表取締役　吉田内次
研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）
電　話　(54)　2371
営業所　東京都中央区小田原町2の11　電話（54）7679番
函館出張所　函館市根崎町140

暑　中　御　伺

昭和三十三年盛夏

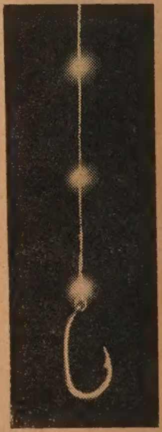
紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業に画期的成果をもたらす発光漁具

発　光　餌

実用新案特許出願中



1. 本品は自発光塗料を使用し，蓄光塗料と異り，いつまでも光り続ける自発光性を持つ事を特徴とします．
2. 釣針の上部に取付けた本製品は海中で螢のように発光し集魚の効果を揚げ海中で変質する事なく数年間光度を持続します．
3. 本品を発売してよりまだ日が浅いにもかかわらずその性能を認められ各方面よりの御好評を得ております．

御採用先

大洋漁業KK，報国水産KK，宝幸水産KK，昭和漁業KK，焼津遠洋漁業協同組合，その他所属船数十隻

ルミナス産業株式会社

本社工場　東京都品川区大崎本町3丁目607番地
電話大崎(49)1872・1873番

暑中御伺

光電の方探

Kodenのロラン

株式会社 光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金(44)代表1131～7番

Koden Electronics Co. Ltd.

倉敷ビニロン

クレモナ 万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

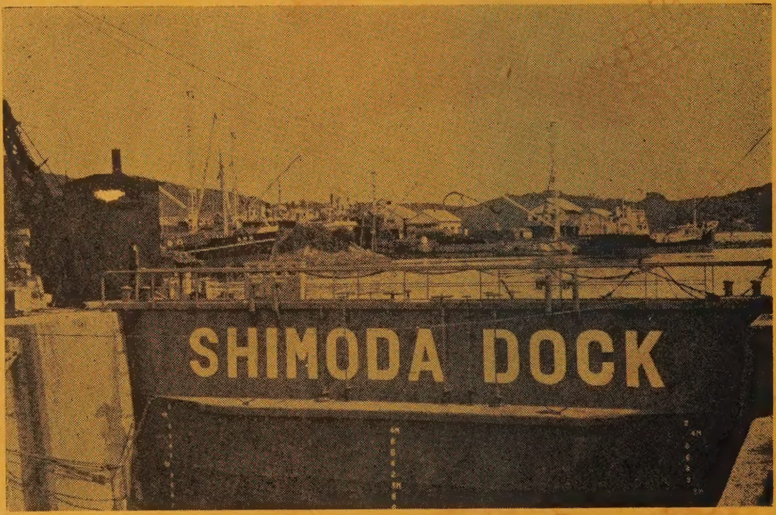
本社 大阪市北区梅田2(第一生命ビル)
東京事務所 東京都中央区日本橋室町2の4

暑中御伺

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ		幅		深さ	
		59.15 米		14.0 米		6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)		吃水(平均汐高線1.7米に於て)		総屯数
		57.0 米	11.0 米		4.41 米		800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都港区芝田村町 4—13　電話 芝 (43) 2539・8655番

船出の支度
石油は出光で

安全決適な航海の為に
是非・・・・・

出光興産株式会社

本　社　東京・銀座東四丁目
三崎出張所　三浦市三崎町海南　電話三浦432

鮪漁業　第五十一号　昭和三十三年七月十日発行（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可